

八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書

2006年3月

八尾市教育委員会



八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書 正誤表

頁行	誤	正
4頁 3行	第9図	第17図
15頁 11行	東西方向に走る	南北方向に伸びる
20頁第34図	(日)	①
20頁第34図	(月)	②
20頁第34図	出土遺物実測図	平・断面図
22頁	【第8図 図版10】	【第8図 図版9・10】
26頁 2行	破片などの	破片などの
26頁25行	南北方向に伸びる	文字抹消
28頁31行	石室の奥壁	石室の側壁

## はじめに

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置し、生駒山地西麓から大阪平野東部にかけての範囲に市域を有しております。古くは、河内湖、河内潟に面し、旧大和川の支流となる多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連綿と遺跡が形成されており、全国的にも有数な遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が平成17年度に（財）八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の周知の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設に伴う発掘調査や民間の各種事業の開発工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。本市においては、東郷遺跡を始めとして複数の大規模開発事業が計画され、事前の遺構確認調査においても弥生時代から中世を中心として遺跡・遺構の広がりを確認できる貴重な成果が得られました。

今後、市内の貴重な埋蔵文化財が、市民の方々をはじめとして、多くの人々に親しまれるとともに、保存・活用していくことが文化財行政の重要な課題となっていくでしょう。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

八尾市教育委員会

教育長 森 卓

## 例　　言

1. 本書は、平成 17 年度の国庫補助事業（市内遺跡発掘調査）として、大阪府八尾市で実施した発掘調査の報告書である。
2. これらの調査は、八尾市教育委員会が平成 17 年度に（財）八尾市文化財調査研究会へ委託して実施したものである。
3. 本書には、平成 17 年度に実施した発掘調査及び遺構確認調査のうち、同年 4 月から 12 月までに実施した調査の結果を掲載している（掲載順序は遺跡名の五十音順となっている）。特に成果のあった調査については、その概要を掲載した。  
また、平成 16 年度の 1 月から 3 月までに実施した調査についても掲載している。
4. 調査した箇所については、巻頭に一括して位置図を掲載している。
5. 本書の作成にあたっては、（財）八尾市文化財調査研究会の各調査担当者（高萩千秋・原田昌則・西村公助・坪田真一・岡田清一・樋口薫・荒川和哉）が執筆を行い、執筆分担は各報告の文末に記した。
6. 本書に掲載している出土品及び図面は、埋蔵文化財の活用に資するため八尾市立埋蔵文化財調査センターにおいて保管している。
7. 本書の編集は、八尾市教育委員会 生涯学習部文化財課が行った。

## 本文目次

### 調査地位置図 I ~ X IV

平成 16 年度 1 ~ 3 月の調査	1
(調査 覧表)	1
1. 東郷遺跡 (2004-370) の調査	1
平成 17 年度 4 ~ 12 月の調査	7
1. 跡部遺跡	7
1- 1. 跡部遺跡 (2005-363) の調査	7
2. 植松遺跡	9
2- 1. 植松遺跡 (2005-25) の調査	9
3. 大竹遺跡	10
4. 恩智遺跡	11
4- 1. 恩智遺跡 (2005-38) の調査	11
4- 2. 恩智遺跡 (2005-61) の調査	13
4- 3. 恩智遺跡 (2005-254) の調査	14
4- 4. 恩智遺跡 (2005-199) の調査	18
4- 5. 恩智遺跡 (2005-200) の調査	18
5. 楽音寺遺跡	19
6. 亀井遺跡	19
7. 黄振遺跡	20
7- 1. 黄振遺跡 (2005-49) の調査	20
8. 木の本遺跡	21
9. 久宝寺遺跡	21
10. 久宝寺寺内町	21
11. 郡川遺跡	21
12. 小阪合遺跡	22
12- 1. 小阪合遺跡 (2005-44) の調査	22
13. 佐堂遺跡	25
14. 成法寺遺跡	25
15. 田井中遺跡	25
16. 高安古墳群	25
16- 1. 高安古墳群 (2004-211) の調査	25
17. 竹瀬遺跡	35
18. 東郷遺跡	35
18- 1. 東郷遺跡 (2005-221) の調査	35
19. 中田遺跡	36
19- 1. 中田遺跡 (2005-158) の調査	36
19- 2. 中田遺跡 (2005-332) の調査	37
20. 東弓削遺跡	38
21. 水越遺跡	38
21- 1. 水越遺跡 (2005-322) の調査	38
22. 美闌遺跡	39
23. 八尾寺内町	39
23- 1. 八尾寺内町 (2005-273) の調査	39
23- 2. 八尾寺内町 (2005-339) の調査	40
24. 八尾南遺跡	41
25. 矢作遺跡	41
26. 山木町北遺跡	41
27. 叴削遺跡	41
27- 1. 叴削遺跡 (2005-185) の調査	41

## 図版目次

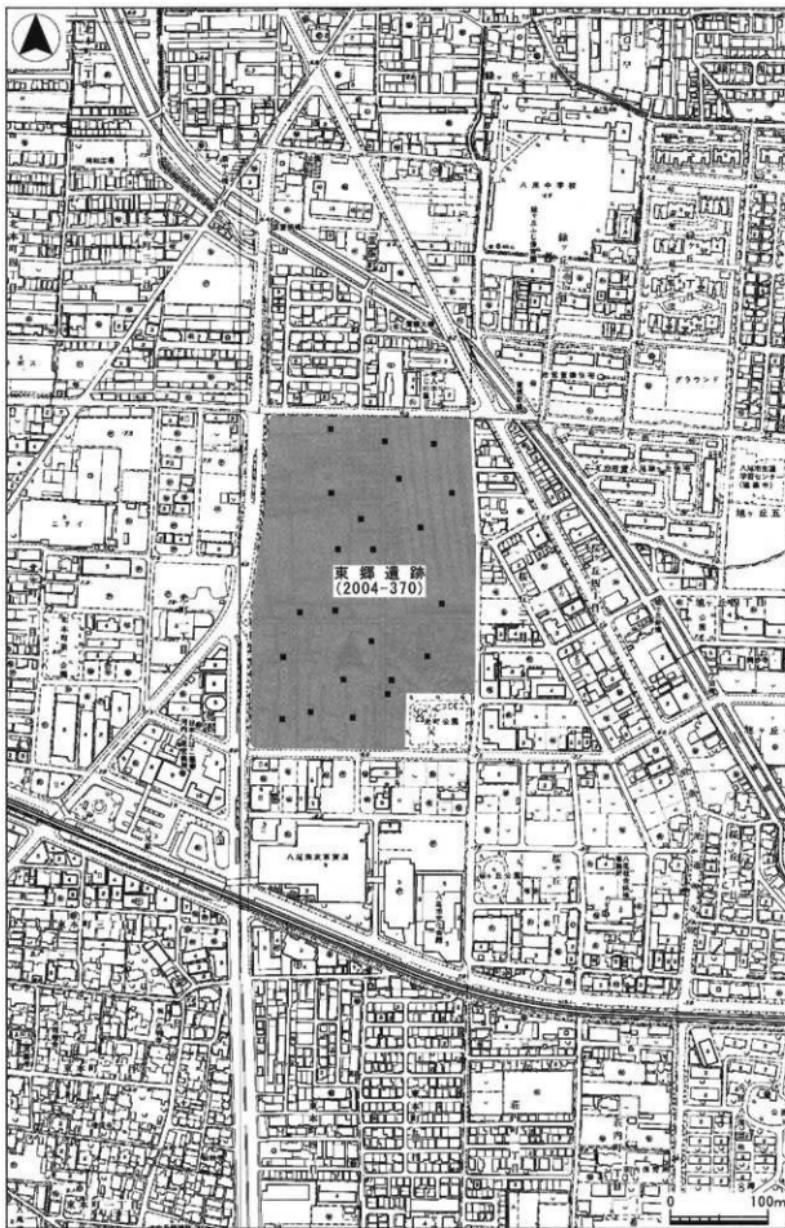
- 図版 1 1. 東郷 2004-370
- 図版 2 1. 東郷 2004-370
- 図版 3 1. 東郷 2004-370
- 図版 4 1- 1. 跡部 2005-363  
2- 1. 横松 2005-25
- 図版 5 4- 1. 恩智 2005-38
- 図版 6 4- 2. 恩智 2005-61
- 図版 7 4- 3. 恩智 2005-254
- 図版 8 4- 4. 恩智 2005-199  
4- 5. 恩智 2005-200
- 図版 9 7- 1. 蒜振 2005-49  
12- 1. 小阪合 2005-44
- 図版 10 12- 1. 小阪合 2005-44
- 図版 11 16- 1. 高安古墳群 2004-211
- 図版 12 16- 1. 高安古墳群 2004-211
- 図版 13 16- 1. 高安古墳群 2004-211
- 図版 14 16- 1. 高安古墳群 2004-211
- 図版 15 18- 1. 東郷 2005-221  
19- 1. 中田 2005-158
- 図版 16 19- 2. 中田 2005-332  
21- 1. 水越 2005-322
- 図版 17 23- 1. 八尾寺内町 2005-273  
23- 2. 八尾寺内町 2005-339
- 図版 18 27- 1. 馬削 2005-185

## **調査地位置図**

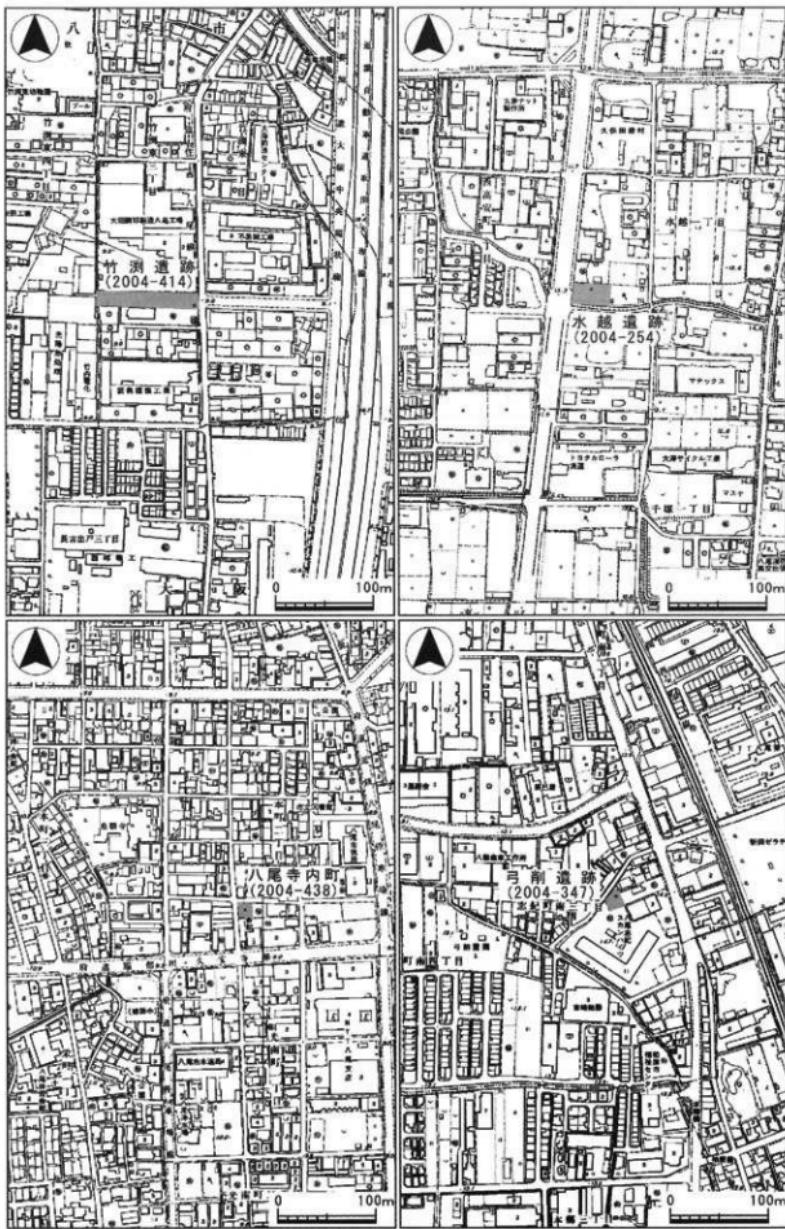
**(平成 16 年度 1 月～3 月の調査：第 1 図～第 3 図)**



第1図 調査地位置図 I (S = 1/5000)



第2図 調査地位置図Ⅱ (S = 1/5000)



第3図 調査地位置図Ⅲ ( $S = 1/5000$ )

## 調査地位置図

(平成 17 年度 4 月～ 12 月の調査：第 4 図～第 14 図)



第4図 調査地位置図IV(S = 1/5000)



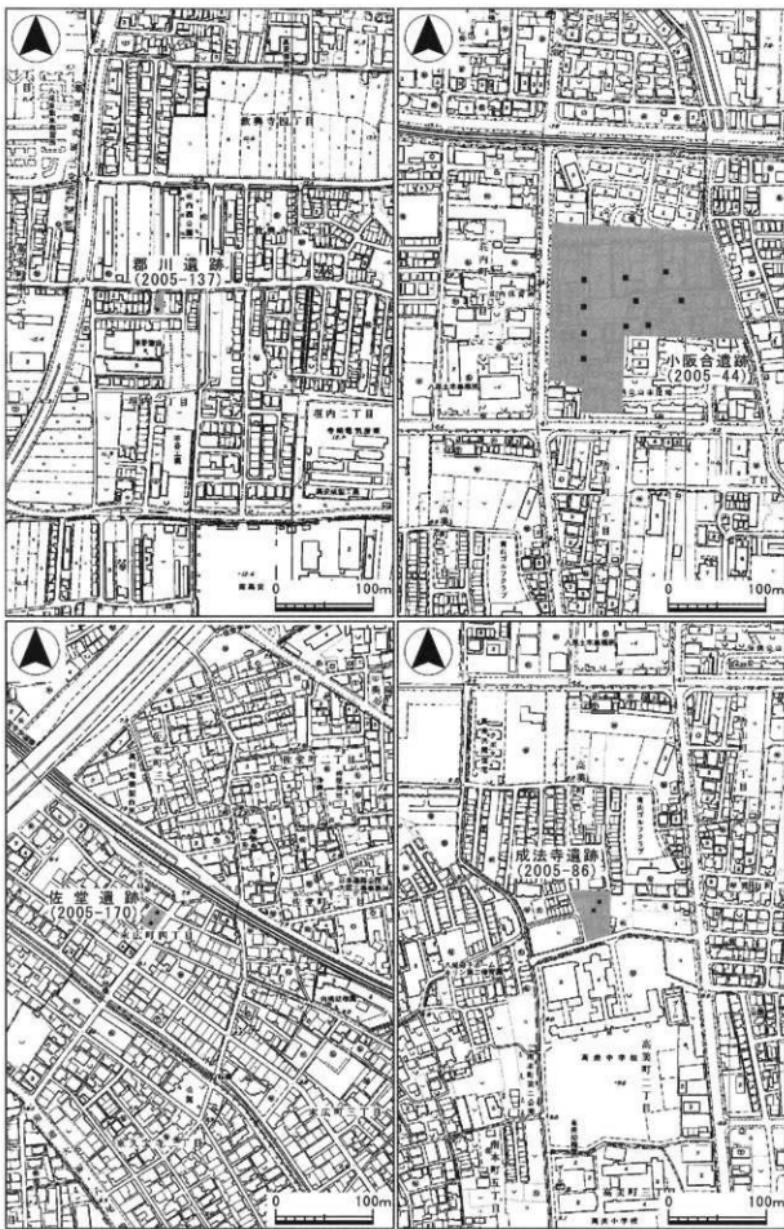
第5図 調査地位置図V (S = 1/5000)



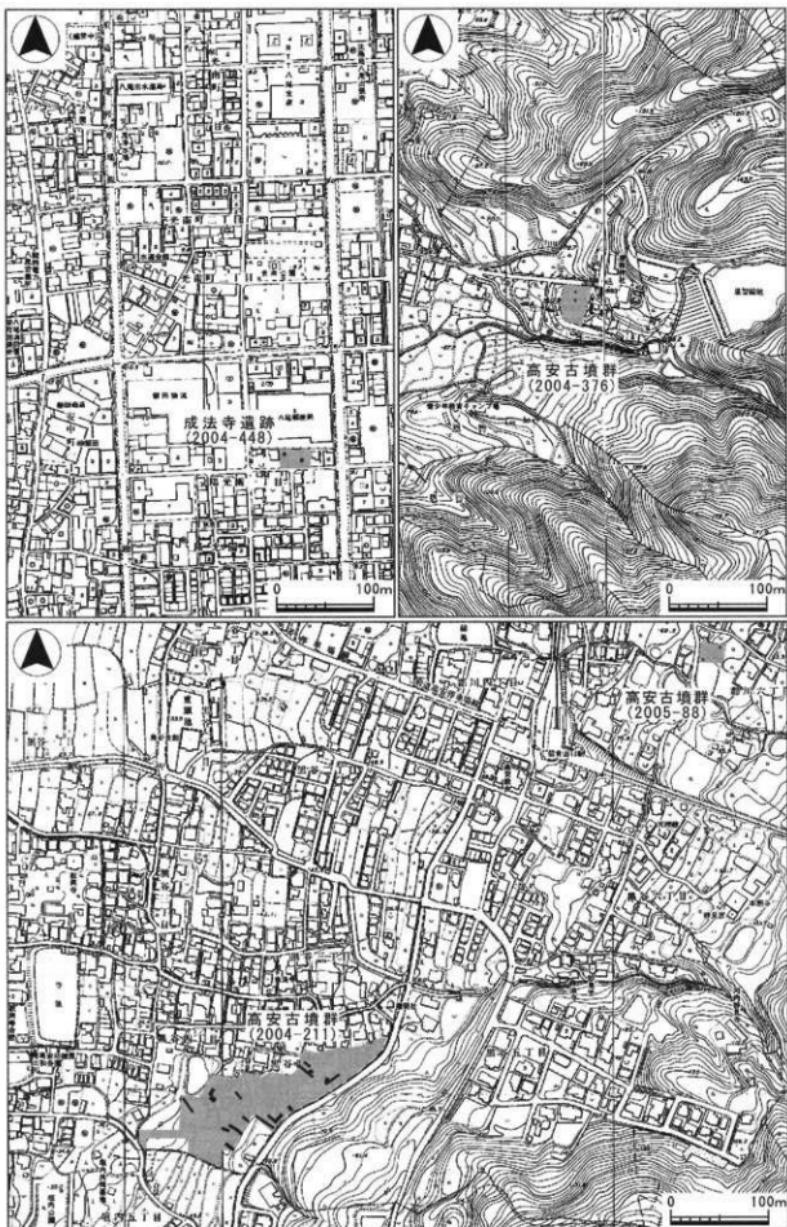
第6図 調査地位置図VI ( $S = 1/5000$ )



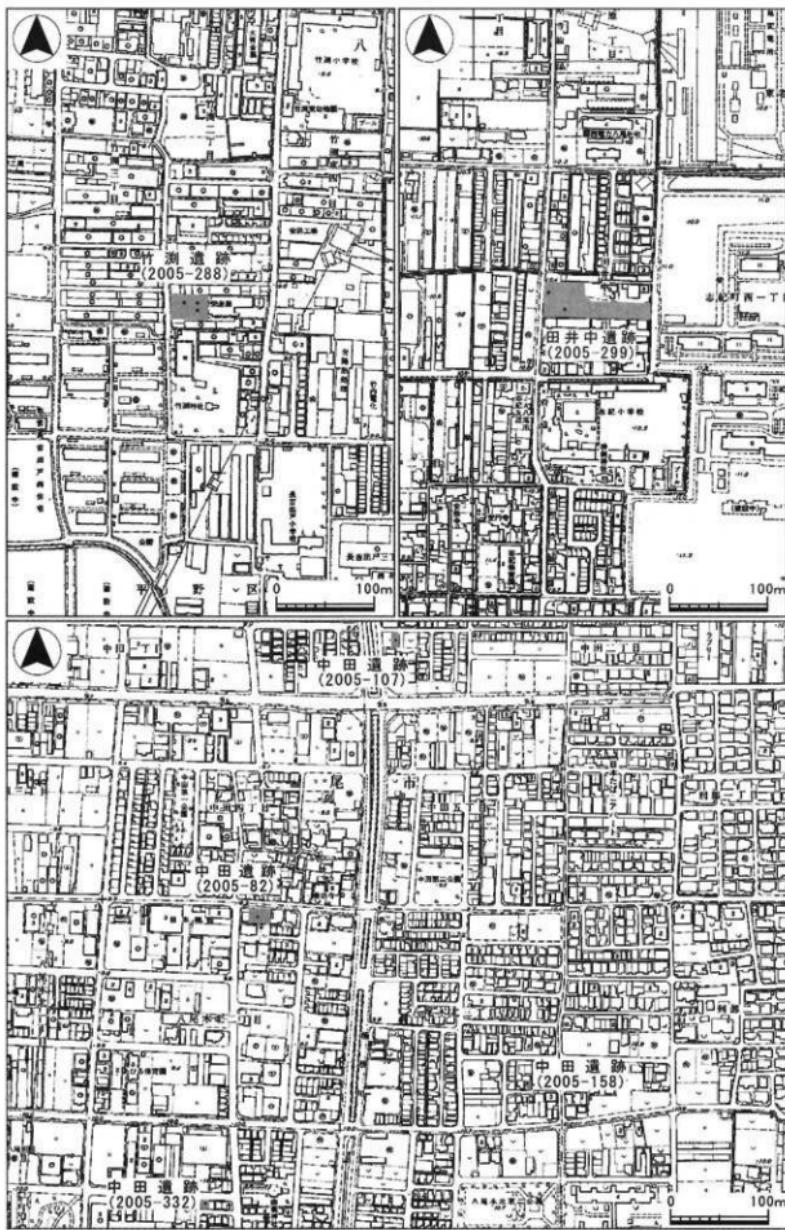
第7図 調査地位置図Ⅶ(S=1/5000)



第8図 調査地位置図図(S = 1/5000)



第9図 調査地位置図IX ( $S = 1/5000$ )



第10図 調査位置図X (S = 1/5000)



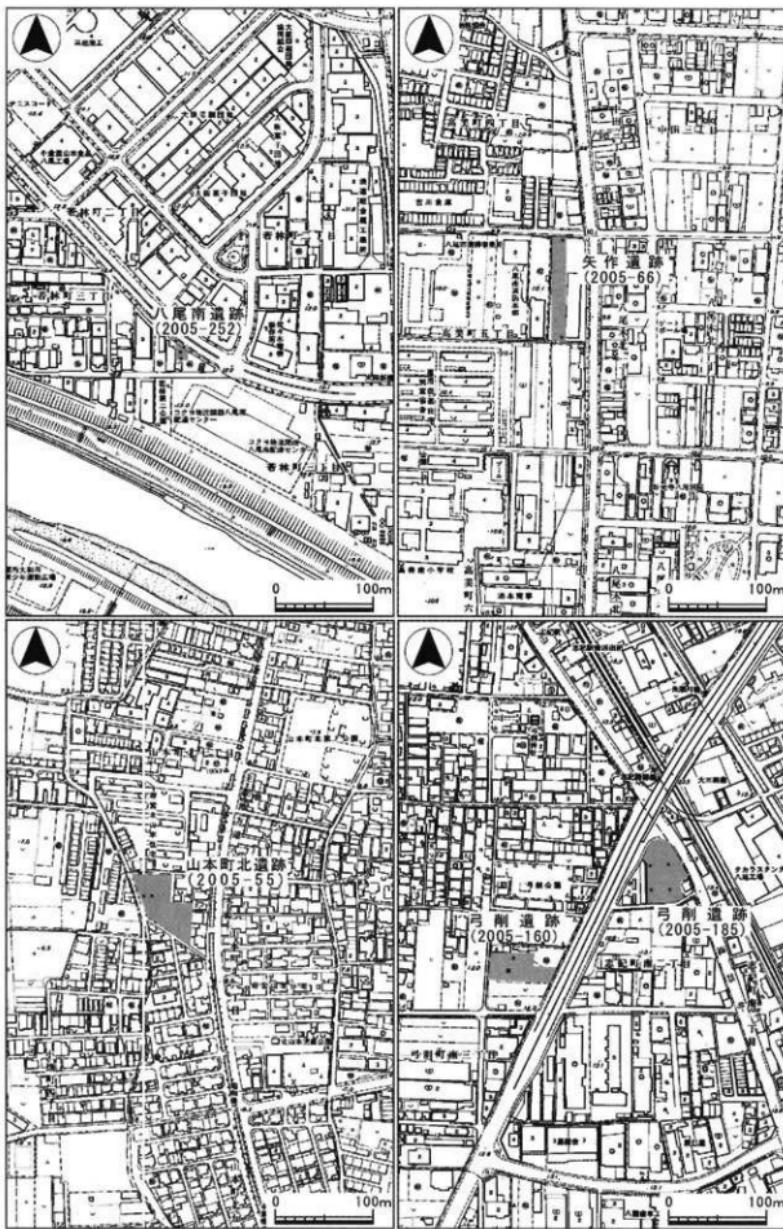
第11図 調査地位置図 X I (S = 1/5000)



第12図 調査地位置図 X II (S = 1/5000)



第13図 調査地位図 X III (S = 1/5000)



第14図 調査位置図 XIV (S = 1/5000)

## 平成 16 年度 1 月～3 月の調査

(調査一覧表) 【第 1～3 図】

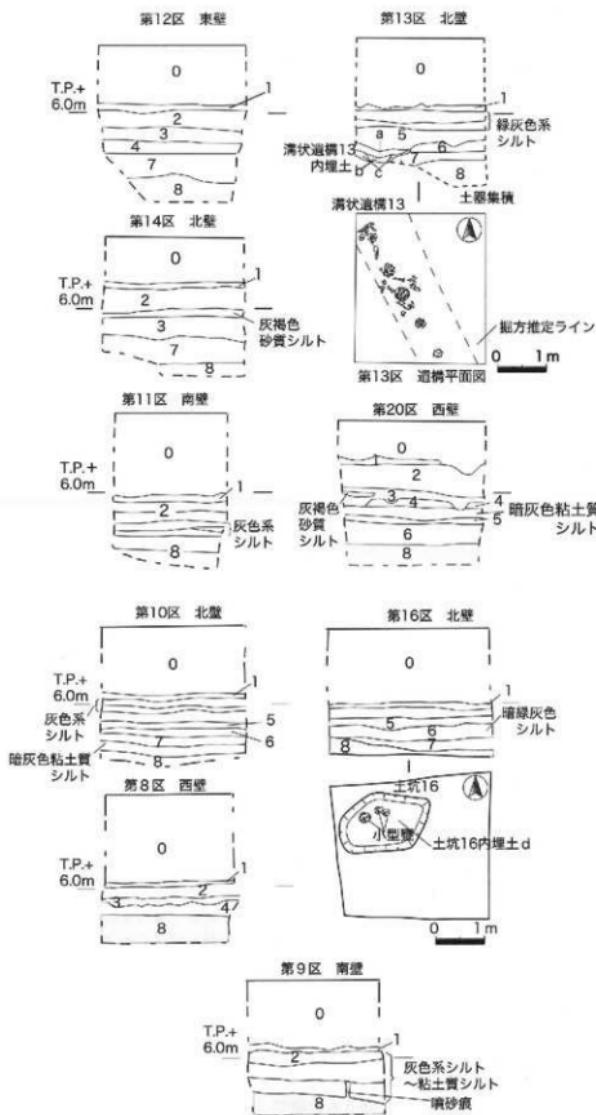
調査名 (申請番号)	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
奈良寺遺跡 (2004-280)	20050112	奈良寺 1 丁目 84	知的障害者酒井長彦施設：淨化槽(遺構確認調査)	3 × 2 m 深さ 2.8 m : 1 間所 (6 m <sup>2</sup> )	T.P. - 10.6 m 東西方向の構検出。遺物なし	原田
東坂遺跡 (2004-353)	20050113	東坂町 2 丁目 127 番 2(一部), 129 番 11, 129 番 13, 129 番 19, 129 番 20	共同住宅・分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	2 × 2 m 深さ 2.0 m : 1 間所 (4 m <sup>2</sup> )	T.P. + 5.4 m 木田耕作土の可能性がある地層を確認。遺物なし	高秋
成広寺遺跡 (2004-230)	20050124・0215	光明町 2 丁目 45 番の一部	分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	1.5 × 1.5 m 深さ 2.0 m : 6 間所 (14 m <sup>2</sup> )	T.P. + 8.5 m 河川。遺物なし	原田
神宮寺遺跡 (2004-288)	20050114	神宮寺 4 丁目 28-3	分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.8 m : 1 間所 (4 m <sup>2</sup> )	盛土内工事	西村
竹瀬遺跡 (2004-414)	20050208	竹瀬東 3 丁目 118, 119, 123-1	T. 墓 : 工事用トレーナー(遺構確認調査)	2.5 × 2.5 m 深さ 2.8 m : 1 間所 (6.25 m <sup>2</sup> )	遺構遺物なし	西村
東郷遺跡 (2004-370)	20050111～19	光明町 3 丁目 3-4・6・7・8番	古墳 : 基盤(遺構確認調査)	4.0 × 4.0 m 深さ 3.5 m : 22 間所 (36 m <sup>2</sup> )	詳細は「1」に記載	原田
水城遺跡 (2004-254)	20050126	水城 1 丁目 98・99	店舗 : 淨化槽(遺構確認調査)	2.5 × 2.5 m 深さ 2.5 m : 1 間所 (6.25 m <sup>2</sup> )	盛土内工事	原田
八尾寺内町 (2004-438)	20050228	本町 2 丁目 157 の一部	個人住宅 : 基礎(空洞調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.8 m : 1 間所 (4 m <sup>2</sup> )	寺内町の形成時期の地層を確認	西村
弓削遺跡 (2004-347)	20050308	志紀町南三 1 丁目 105番	個人住宅 : 基礎(遺構確認調査)	1.5 × 1.5 m 深さ 1.5 m : 1 間所 (2.25 m <sup>2</sup> )	近世以前の河川堆積を確認	西村

### 1. 東郷遺跡 (2004-370) の調査 【第 2 図 図版 1～3】

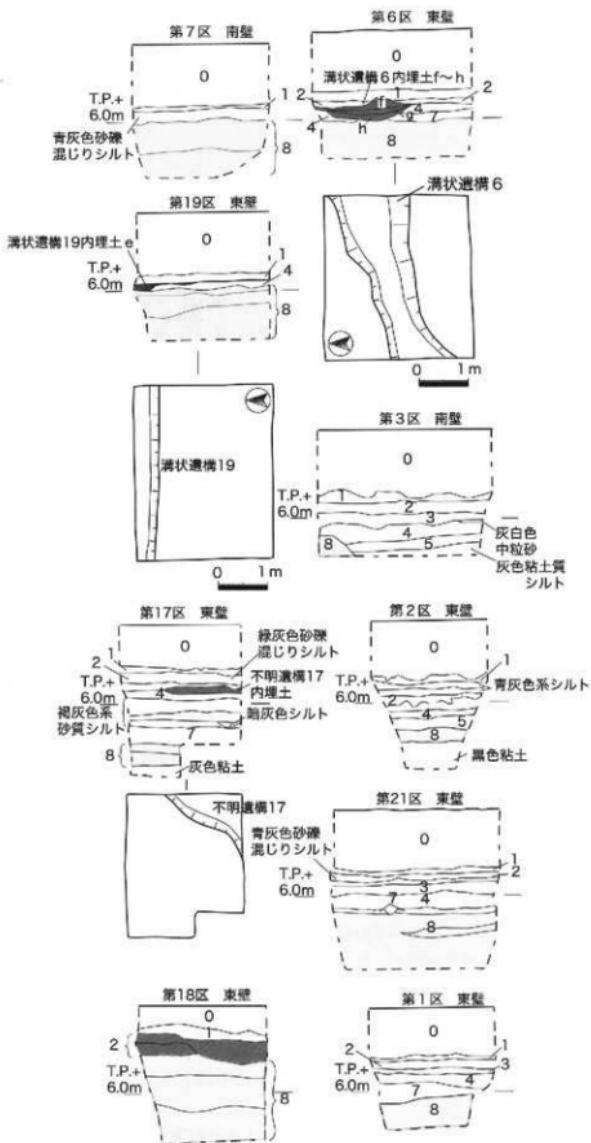
(1) 調査概要: 建設予定地内に 4 m 四方の調査区を第 1～22 区の計 22 間所設定し、工事深度に準じて現地表 (T.P. + 7.5 ～ 8.0 m) 下約 3.5 m までの掘削を実施した。なお、第 14 区と第 22 区については、工事計画の規模上、現地表から約 4.5 m までの掘削を実施した。第 15 区については、丁場建設時に現地表からカクランされており、調査対象にはならなかった。なお、第 1～22 区の調査区番号については、工事主体側の掘削工程に準じたもので、番号は順不同となっている。

#### 【序説】

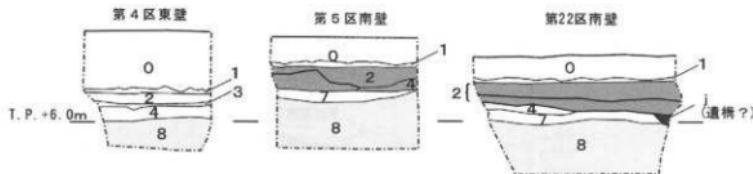
各調査区とも現地表下 0.5 ～ 2.0 m は既存の工場建設に伴う盛土(第 0 層)で、その下層は層厚 0.1 ～ 0.2 m の近・現代の耕作土(第 1 層)となっている。以下、順に全調査区において普遍的に堆積する 7 層(第 2 ～ 8 層)の各層について記述する。第 2 層は褐色系砂礫混じりシルトで、層厚 0.1 ～ 0.5 m を測る。層内には中世の上師器皿・瓦器類等の細片が含まれる。南部中央にあたる第 6・19 区の 2 地点では、当該期の遺構(溝状遺構 6・19)を検出した。さらに、北東部にあたる第 20 区では、平面的に遺構を捉えることができなかつたが、壁断面の観察の結果、動溝らしき痕跡を数箇所確認した。また、南東部にあたる第 5・18・22 区の 3 地点では、層厚 0.3 ～ 0.4 m を測る中世の整地層とも推定される堆積層を確認している。第 3 層は暗褐色系シルトで、当該期の土壤化層と考えられる。第 4 層は黄褐色系シルトで、先述の溝状遺構はいずれも本層の上面で検出した。淘汰不良で偽縫を含む。層厚 0.1 ～ 0.2 m を測る。第 5 層は黒褐色系シルトで、層厚 0.1 ～ 0.2 m を測る。層内には古墳時代前期(布留式期)の遺物が若干含まれる。第 6 層は灰褐色系シルトで、層厚 0.2 ～ 0.3 m を測る。本層は古墳時代前期(布留式期)の遺構構築層である。北端部にあたる第 13 区および中央からやや東寄りにあたる第 16 区の 2 地点では、本層の上面で当該期の遺構(溝状遺構 13・土坑 16)を検出した。第 7 層は灰褐色砂質シルトで、層厚 0.2 ～ 0.3 m を測る。本層は洪水などに伴う水成層で、遺物は含まれない。第 8 層は灰白～褐色の極細～粗粒砂が埋積した河川堆積層である。層厚は第 2・17 区で 0.2 ～ 0.3 m と希薄であるが、それ以



第15図 平・断面図(S=1/100)



第16図 平・断面図(S=1/100)



#### 【基本層序】

- 第0層 盛土
- 第1層 暗青灰～暗灰色粘土質シルト(近現代の耕作土)
- 第2層 暗褐色系砂礫混じりシルト(中世遺物包含層)
- 第3層 暗褐色系シルト(中世の土壤化層)
- 第4層 黒褐色系シルト(中世遺構の構築層)
- 第5層 黑褐色系褐色系シルト(古墳時代前期遺物包含層)
- 第6層 黑褐色系褐色系シルト(古墳時代前期遺構の構築層)
- 第7層 黑褐色系砂質シルト(水成層)
- 第8層 白～褐色～中粒砂(洪水および河川堆積層)

#### 【遺構内埋土】

- ・第13区 溝状遺構13
  - a: 暗褐色極細粒砂混じりシルト
  - b: 暗灰色粘土質シルト
  - c: 暗褐色シルト
  - d: 暗褐色粘土質シルト
  - e: 暗褐色砂礫混じりシルト
  - f: 赤褐色シルト
  - g: 黑褐色砂礫混じりシルト(炭化物含む)
  - h: 暗褐色粘土質シルト
- ・第19区 溝状遺構19
  - i: 不明遺構
  - j: 黑褐色砂礫混じりシルト
- ・第22区 遺構?
  - k: 暗灰色粘土質シルト

第17図 地層断面図(S=1/100)

外の調査区では2m以上を測る。図面には掲載しなかったが、第14・22区の2地点で実施した下層確認調査(現地表下約4.5m迄)では3m以上を測り、湧水が著しく、掘削中に上層の壁面は崩壊した。

#### 【検出遺構・出土遺物(※埋土は第9図の遺構内埋土を参照)】

##### 〔中世〕

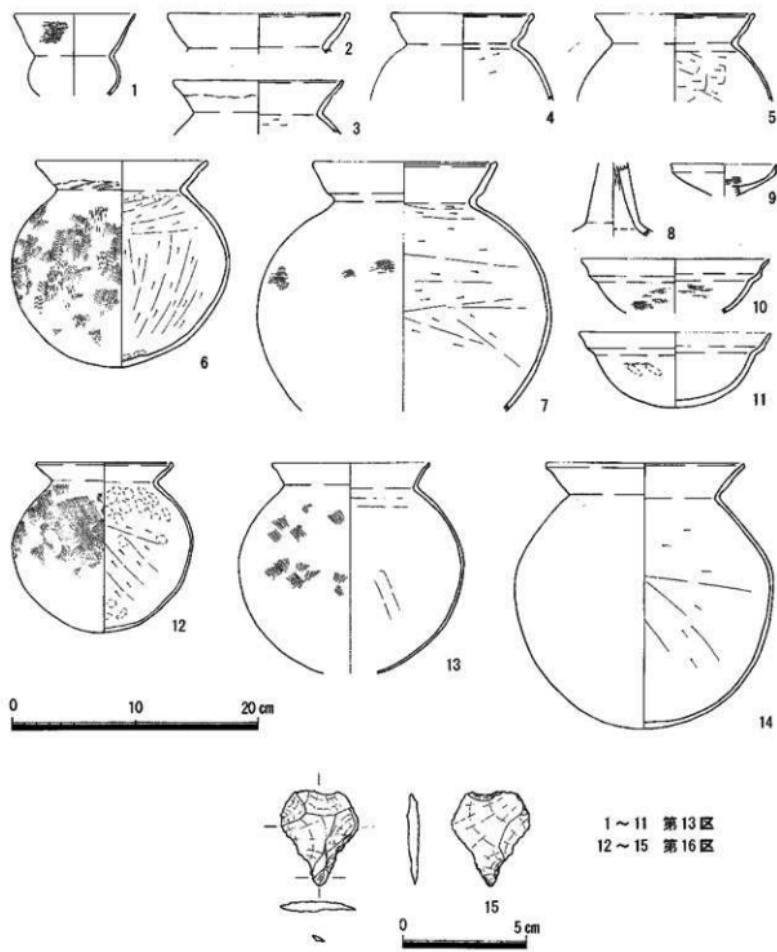
- ・第6区—<溝状遺構6>現地表下約1.5m(T.P.+6.2m)付近で検出した南北に伸びる溝状遺構である。幅1.0～1.6m、深さ0.5mを測る。埋土は3層に分層され、土師器皿、瓦質羽釜の細片が少量出土した。
- ・第19区—<溝状遺構19>現地表下約1.4m(T.P.+6.1m)付近で検出した。掘方の北脇は調査区外に至るが、南北に伸びると推定される溝状遺構である。検出幅0.3～0.5m、深さ0.1m前後を測る。埋土は単一層で、土師器、瓦器碗の細片が少量出土した。

##### 〔古墳時代前期〕

- ・第13区—<溝状遺構13>現地表下約2.2m(T.P.+5.4m)付近で検出した北西—南東に伸びる溝状遺構である。掘方は平面で明確に捉えることができなかったが、壁面観察の結果、幅1.2m前後、深さ0.3m前後を測るものであることが確認できた。埋土は3層に分層でき、内部からは布留式占相に比定される壺・甕・高杯が出土した。器種では小型の甕が大部分を占めるが、遺存状況は悪く、細片がほとんどである。量的には、コンテナで約2箱分を数える。

- ・第16区—<土坑16>現地表下約1.9m(T.P.+5.5m)付近で検出した土坑である。掘方の平面は南北径1.2m、東西径1.8m、深さ0.2mの東西に長い橢円形を呈する。埋土は単一層で、内部からは布留式占相に比定される甕3個体分と細片および石器1点を含む遺物がコンテナ約1/2箱分出土した。

- (2) 出土遺物：今回出土した遺物のうち、図化できたものは第13区溝状遺構13から11点(1～11)、第16区土坑16から4点(12～15)の計14点である。以下、各遺物について記述する。



第18図 第13区（1～11、第16区（12～15）出土遺物実測図（1～14 S=1/4、15 S=1/2）

### 〔第13区 溝状遺構13〕

【壺】1は小型丸底壺である。口縁径は体部径を凌駕し、斜上方へ大きく開く。口縁部外面の一部に横方向の密なヘラミガギが認められるが、内外面とも大半が摩耗しており調整は不明瞭である。色調は内外面ともに明褐色を呈する。

【壺】2・3は口縁部のみ残存である。2は内縁気味に伸びる口縁部で、端部はやや肥厚して内傾する。灰褐色を呈する。3は口縁部が外反気味に伸びた後、端部は上方に丸みをもって收める。口縁部の外面には1条の接合痕を有する。内外面ともに摩耗気味であるが、肩部内面にケズリが見られる。褐灰色を呈する。4・5は上半部1/2残存である。4は2段に鈍く屈曲する口縁部を有し、

端部は丸みをもって肥厚する。体部上半は丸みをもち、調整について外面は摩耗が著しく調整不明であるが、内面には削りが見られる。外面の一部に煤が付着する。5の口縁部は斜上方に直線的に伸び、中ほどで若干肥厚する。端部は内傾する面を有する。体部上半は丸みをもち、調整について外面は摩耗により不明であるが、内面にはケズリが見られる。6は全体の3/5残存する。口縁部は斜上方に直線的に伸び、端部は外傾する面を有する。頸部外面に接合痕が認められる。体部は球形で、外面はハケナデ(8本/cm)、内面はケズリ調整される。底部内面には粘土が付加され、肥厚している。茶灰色を呈し、体部外面下半部に煤が付着する。7は全体の1/3残存する。口縁部は内弯気味で、端部は内傾する面を有する。体部は球形で、外面はハケナデ(8本/cm)、内面はケズリ調整である。器壁は4mm前後で、口縁部に比して薄い。

【高杯】8は脚柱部のみ残存である。中空で、外面は摩耗のため調整不明である。明褐色を呈する。

【器台】9は小型器台の受部である。口縁端部が短くつまみ上げられ、皿状を呈する。内外面ともに摩耗しているが、受底部内面の一部にミガキが認められる。明褐色を呈する。

【鉢】10・11は口縁部が2段に屈曲する有段鉢である。10の内外面の一部には、横方向の密なヘラミガキが認められる。11の口縁部の外反度は、10に比してやや鈍い。内外面ともに摩耗が著しいが、体部外面の一部に1条の接合痕と指頭圧痕が見られる。色調はいずれも明褐色を呈する。以上は古墳時代前期前半に位置づけられる。

#### 〔第16区 土坑16〕

【甕】12～14の甕はいずれも口縁端部は摘み上げ、体部は球形を呈する。しかし、口縁部そのものを見ると、12が内弯気味であるのに対し、13・14は外反気味に伸びる。調整を見ていくと、12の体部外面上半部はハケナデ(10本/cm)、下半部は摩耗で不明である。内面は肩部と底部に指頭圧痕が明瞭に認められ、中位はケズリである。13・14の体部内外面も摩耗気味ではあるが、外面の上半部には一部ハケナデ(7本/cm)、内面にケズリの痕跡が認められる。色調は12・14が茶褐色、13が明褐色を呈する。以上の甕も既述の第13区溝状遺構13と同時期の所産と思われる。

【石器】15は扁平な剥片に調整を加えて成形したサスカイト製の石錐である。法量は長さ3.8cm、最大幅3.2cm、重量3.3gを測る。

(3)まとめ：今回の遺構確認調査の結果、全調査区で共通する盛上・近現代の耕作土、そして現地表土約3m以下に堆積する河川内埋土を除くと、古墳時代前期～中世にかけての様相が南部と北部で異なることがわかった。南部ではさらに東部と西部、そして北部の3区画に分けられる。まず、西部は中世の土壤化層を示唆する地層が確認できたが、遺物は希薄で遺構を検出するまでには至らなかった。東部では、層厚0.3～0.4mを測る中世の整地層とも推定される堆積層が遺存しており、ここでは当該期の遺構の存在する可能性が高い。北部では遺物包含層は希薄であったが、第6・17・19区の3地点において明確な掘力を有する当該期の遺構を検出した。その状況からは、周辺にさらに当該期の遺構が広がっているものと思われる。中世以前の時期については、下層で古墳時代前期の遺物の網片が若干含まれるが、遺構とともに明瞭ではない。次に北部については、南部で見られたような中世の遺構・遺物は逆にはほとんど見られない。そしてここでも、西部と東部の2区画に分けられる。古墳時代前期に比定される遺構が、東部にあたる第13・16区の2地点で検出した。遺物包含層と言えるほど多量の遺物を含む地層は確認できなかったが、遺構内に埋蔵された十器類はかなり濃密であった。遺構・遺物の検出状況から、墓域を想定させる。付近では、カクランを受けていた第15区は除外して、第14・20区においても当該期の遺物が同質・同レベルの地層の中に少量含まれており、遺構の広がりに注意を要する。

(岡出清一)

#### 参考文献

- ・原田昌則 1990Ⅱ 久宝寺遺跡(第1次調査)：『八尾市文化財調査研究会報告37』(財)八尾市文化財調査研究会

## 平成 17 年度 4 月～12 月の調査

### 1. 跡部遺跡 【第4図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-251	2005/09/25	跡部北の町 3 丁目 19,20	倉庫付事務所：基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.5 m : 2箇所 (8 m <sup>2</sup> )	遺構なし。T.P. + 6.8 m 古墳時代初頭(庄内式期)土器或片出土。	原田
2005-132	2005/10/4	太子堂 1 丁目 99番、3,100番 1,100番 3 から 100番 10 まで 及び 100番 17	分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2 m : 2箇所 (8 m <sup>2</sup> )	T.P. + 7.8 m 中世の水田耕作土か?	西村
2005-363	2005/12/22	跡部北の町 3 丁目 7番、8番 1、9番 1	店舗：基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.8 m : 3箇所 (12 m <sup>2</sup> )	詳細は [1-1] に記載。	原田

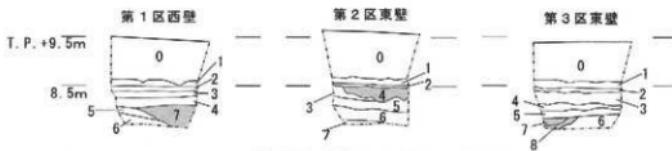
### 1-1. 跡部遺跡(2005-363)の調査【第4図 図版4】

(1) 調査概要：2 × 2 m の 3 箇所を調査した。北側から第1～3区と呼称する。調査で使用した標高値は八尾市作成地図(1/2500)に記載されている T.P. + 9.0 m (跡部北の町 2 丁目)である。

【地層】第1区：現地表下 1.8 mまでの間で 8 層(0～7 層)を確認した。0 層は客土。層厚 0.85 m。1 層は N3/0 暗灰色砂質シルト。作土層。2 層はグライト化が顕著な 10GY7/1 明緑灰色砂質シルト。3 層は 10GY8/1 明緑灰色砂質シルトに 10YR6/6 明黄褐色シルトのブロックを含む搅拌された層相。4 層は 5GY7/1 明オリーブ灰色極細粒砂混砂質シルト。5 層は酸化鉄斑が認められる 5Y6/1 灰色中粒砂混砂質シルトで、7 層を埋土とする遺構構築面。6 層は 10RG7/1 明青灰色粘土質シルトである。7 層は 2.5GY6/1 オリーブ灰色中粒砂混砂質シルト【溝埋土】。

第2区：現地表下 1.9 mまでの間で 8 層(0～7 层)を確認した。0 層は客土。層厚 0.95 m。1 層は N3/0 暗灰色砂質シルト。作土層。2 層は 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト。3 層はマンガン斑が顕著な 10YR6/1 暗灰色砂質シルトで 4 層を埋土とする遺構構築面である。5 層は 10R5/3 にぶい黄褐色砂質シルト、6 層は 10YR4/1 暗灰色砂質シルトで、5・6 層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な層相である。7 層は 5Y7/1 灰白色中粒砂を主体とする河川堆積層である。

第3区：現地表下 1.8 mまでの間で 9 層(0～8 層)を確認した。0 層は客土。層厚 0.8 m。1 層は N6/0 灰色砂質シルト。作土層。2 層は酸化鉄斑が認められる 10GY8/1 明緑灰色砂質シルト。3 層は管状のマンガン斑が顕著な 5Y7/1 灰白色極細粒砂。4 層は 10YR7/4 にぶい黄褐色砂質シルト。5 層は上部を中心に酸化鉄斑が認められる 2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト。6 層は 10GY7/1 明緑灰色シルトで 7・8 層を遺構埋土とする遺構構築面。7 層は N6/0 灰色粘土、8 層は N4/0 灰色粘土質シルトで、両層は遺構埋土である。特に 8 層からは炭・植物遺体が多く含まれており、遺物としては古墳時代前期後半(布留式新相)に比定される壺等の土器類が出土している。

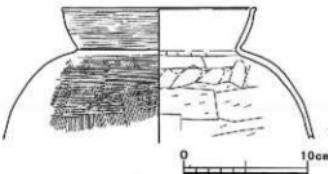


第19図 地層断面図(S = 1/100)

### 【検出遺構】

- 第1区－5層を構築面とする溝。
- 第2区－3層を構築面とする溝。
- 第3区－6層上面を構築面とする古墳時代前期後半（布留式新相）の溝。

(2) 出土遺物：第3区の8層からは古式土師器壺が1点（1）出土した。1は布留式壺の小片である。大きく肩の張る肩部から屈曲し、内溝して伸びる口縁部を形成するもので、端部は小さく外反し、内傾する面を作る。器面調整は口縁部内面ヨコナデ、外面ヨコハケ。肩部内面は上位が指ナデ、以下がヘラケズリ、外面はタテハケ後、上部を中心にヨコハケを施す。色調は淡褐色。古墳時代前期後半（布留式新相）に比定される。



第20図 出土遺物実測図（S = 1 / 4）

(3)まとめ：第1～3区で遺構面を検出した。第1・2区で検出した遺構に関しては、出土遺物が皆無であるため明確な時期は不明であるが、層位からみて古代～中世時期が想定されよう。第3区で検出した遺構については、古墳時代前期後半（布留式新相）に比定される遺物が出土しており、北に隣接している久宝寺遺跡とともに当該期の集落域を推定するうえで貴重な資料と言えよう。

（原田昌則）

### 参考文献

- ・西村公助 1999 「19 繩南跡（第4次調査）」『八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度』（財）八尾市文化財研究会報告 25
- ・原田昌則他 2001 『久宝寺遺跡第21次発掘調査報告書 - 大阪狭山市市営点地地区竜華東西線3工区の掘削工事に伴う -』（財）八尾市文化財研究会報告 69 （財）八尾市文化財調査研究会
- ・小林義孝 2002 『跡部遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2001-6 大阪府教育委員会
- ・金城洪夫 2003 「III 繩南跡第35次調査(平成20-25)」『（財）八尾市文化財調査研究会報告 75』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則他 2004 Ⅱ 久宝寺遺跡（第28次調査）『久宝寺遺跡』（財）八尾市文化財調査研究会報告 77』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子 2005 「I 繩南跡（第36次調査）」『（財）八尾市文化財調査研究会報告 81』（財）八尾市文化財調査研究会
- ・成海佳子 2005 「IV 久宝寺遺跡（第33次調査）』『久宝寺遺跡』（財）八尾市文化財調査研究会報告 83』（財）八尾市文化財調査研究会

## 2. 植松遺跡 【第4図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-25 0008	20050531・ 33.1、34、35-1、 36	永端町2丁目	店舗：基礎(追拂確認調査)	3.0m×3.0m: 2箇所 3.4 ×7.2m: 1箇所 深さ3.0 ~3.8m (42.48m <sup>2</sup> )	詳細は【2-1】に記載。	随口

### 2-1. 植松遺跡(2005-25)の調査 【第4図 図版4】

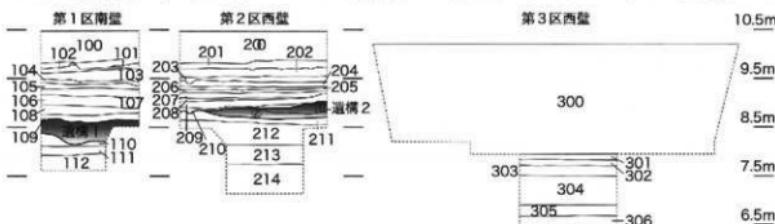
(1) 調査概要: 規模約  $3.0 \times 3.0$ m、面積約  $9.0\text{ m}^2$  2箇所(第1・2区: 5月31日実施)と、 $3.4 \times 7.2$ m 1箇所(第3区: 6月8日実施)について、現地表(T.P. + 10.2m ~ 10.5m前後)下  $3.0 \sim 3.8$ m前後までを調査。レベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地南西に位置する国道25号線のセンター: T.P. + 10.1m)を使用した。

【地層】第1区: 現地表(10.5m)下  $0.8$ m前後までは、客土・盛土(100層)。以下現地表下  $3.0$ m前後までの  $2.2$ m間において13層(内1層は遺構1)の地層を確認した。101層は灰色1~10mm大細礫混粘土質シルト~シルト。旧耕作土である。102-103層はオリーブ灰色粘土質シルト~シルト(土壤化層)。両層ともに水田耕作土である。104層は淡黄色シルト。105~109層は灰黄褐色~にぶい黄褐色粘土質シルト。土師器細片が混在する地層で、整地層の可能性が高い。110・111層は灰黄褐色~オリーブ灰色粘土質シルト~中粒砂。水平ラミナ構造が発達している。112層は灰色シルト質粘土。湿地性の堆積物である。

第2区: 現地表(10.5m)下  $0.7$ m前後までは、客土・盛土(200層)。以下現地表下  $3.0$ m前後までの  $2.3$ m間において15層(内1層は遺構2)の地層を確認した。201層は灰色1~10mm大細礫混粘土質シルト~シルト(旧耕作土)。202・203層はオリーブ灰色粘土質シルト~シルト、グライ化の顕著な土壤化層。両層ともに水田耕作土で、特に203層下面是踏み込みによる変形構造が目立つ。204層は淡黄色シルト。205~210層は、暗灰黄色粘土質シルトと灰白色シルト~粗粒砂の互層。211・212層は灰色シルト質粘土~粘土質シルトで、水田耕作土の可能性が高い。213・214層は灰色~黄灰色を帯びた粘土質シルト~シルト。水成層である。

第3区: 現地表(10.2m)下  $2.2$ mまでは擾乱(300層)。以下現地表下  $3.8$ m前後までの  $1.6$ m間において6層の地層を確認した。301層は灰色植物遺体ラミナ混シルト質粘土~粘土質シルト。302層は管状酸化鉄物沈着灰色粘土質シルト、303層は灰色粘土質シルト。304層は灰白色シルト~粗粒砂で、水平ラミナ構造が発達している。305層は炭化物ラミナ混灰色シルト質粘土。306層はラミナ構造が発達したオリーブ灰色粘土質シルトである。

【検出遺構】遺構1は、平面規模については当調査区の規模を上回るため不明。深さは  $0.4$ mを測る。埋土は黒褐色1~2mm大細礫混粘土質シルのブロック土で、埋土からは奈良時代末~平安初頭頃のものと推測される土師器(1・2)が出土した。第2区西壁で確認した遺構2は、211層上面から切り込む遺構構造と考えられる。埋土からは時期不明の土師器細片が少量出土した。なお、遺構2は、



第21図 地層断面図(S=1/100)

上面において210層水成層が堆積しているため、本来は210層下面検出遺構と呼称すべきである。

(2) 出土遺物：1は上師器小型瓶の口縁端部～体部下位の細片。口縁部は非常に短く、端部は丸い。頸部にはにぶい屈曲点が見える。体部は偏球形か？調整はナデ。体部下位外面には指頭による成形痕が見える。色調は橙色(5YR6/6)で、胎土には1mm大の細礫が極少量混在する。2は土師器鉢の口縁端部～体部下位の細片である。口縁部は短く内傾する。端面は内窪し、にぶく僅む。口縁部と体部の境界にはにぶい変化点が見える。体部は内湾気味である。調整は口縁部が横ナデ。体部外面には指頭成痕が見え、その後ケズリが行われた可能性が高い。内面には横位板ナデを施す。色調は橙色(5YR6/6)で、胎土には極粗粒砂～2mm大細礫が多く混在する。本例は、平城宮発掘調査報告XⅠ分類の十師器鉢Bに該当する。奈良後半～平安時代前期（周辺で実施された調査成果から得られた年代である）に属するものと推測される。

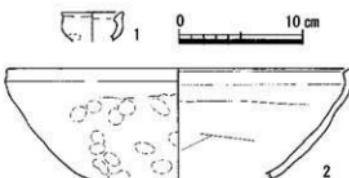
(3)まとめ：今回の調査地の西隣では、当調査研究会による第8次調査(UM2002-8)が実施され、T.P.+8.8～9.1mにおいて、奈良次代後半～平安時代前期の居住域を構成した遺構群を検出している。今回の調査で確認した遺も、概ね、第8次調査で検出された遺構群の東への広がりと捉えることが可能と思われる。  
(樋口 崇)

#### 参考文献

- ・高木真光 1981 「第2章 植松遺跡(永郷町2丁目)」『八尾市文化財発掘調査 1980・1981年度』八尾市教育委員会
- ・高萩千秋 1993 「XVI. 植松遺跡第1次調査(UM92-1)」『八尾市文化財発掘調査報告』財団法人八尾市文化財調査研究会報告39
- ・高萩千秋 1994 Ⅰ II 植松遺跡(第2次調査)『財団法人八尾市文化財調査研究会報告42』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 1998 「I 植松遺跡(第3次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告56』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・西村公助 1998 「III 植松遺跡(第5次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則 1998 「IV 植松遺跡(第6次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告60』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 1999 「I 植松遺跡(第4次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告63』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2000 「IV 植松遺跡(第7次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告63』財団法人八尾市文化財調査研究会
- ・岡田清一 2003 14. 植松遺跡第8次調査(UM2002-8)『平成14年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人八尾市文化財調査研究会

### 3. 大竹遺跡【第4図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2004-323	20050524	水谷6丁目63番1	専用住宅：基礎(遺構確認調査)	3.0m×1.2m: 1箇所 深さ1.8m (3.6m <sup>2</sup> )	遺構の可能性がある地層を確認。遺物なし	樋口
2005-358	20051222	大竹六丁目169	ケアサービス施設改修工事：浄化槽(遺構確認調査)	2.0m×2.0m: 1箇所 深さ2.3m (4m <sup>2</sup> )	上石流堆積を確認。遺物、遺構、遺物なし。	西村



第22図 出土遺物実測図 (S=1/4)

#### 4. 恩智遺跡 【第5図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2004-173	20060406	恩智南町五丁目 103-2	老人福祉施設：浄化槽(造構確認調査)	2.9 × 2.4 m 深さ 2.7 m : 1箇所 (6.96 m <sup>2</sup> )	T.P. + 18.2 m 中世の 水田耕作土。T.P. + 16.2 ~ 18.0 m 砂礫層 の谷状地形	荒川
2006-38	20060520	恩智中町 2丁目 245-1、-2、 246-1、-2	分譲住宅：人孔(造構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.8 m 2箇所 (8 m <sup>2</sup> )	詳細は【4-1】に記載。	原田
2006-122	20060725	恩智北町 3丁目 69、70、65-2、 66-2	分譲住宅：人孔(造構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.8 ~ 2.7 m 3箇所 (12 m <sup>2</sup> )	T.P. + 12.5 m 砂層河 川堆積。遺物なし。	原田
2006-61	20060728	恩智中町 2丁目 289	分譲住宅：人孔(造構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.5 m 2箇所 (8 m <sup>2</sup> )	詳細は【4-2】に記載。	原田
2006-156	20060916	恩智北町 1丁目 21	分譲住宅：人孔(造構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 m 3箇所 (12 m <sup>2</sup> )	T.P. + 10.5 m 砂層河 川堆積。遺物なし。	原田
2005-254	20050927・ 28	恩智中町二丁目 288番2、285番 1の一部	分譲住宅：人孔(造構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.2 ~ 1.4 m 4箇所 (16 m <sup>2</sup> )	詳細は【4-3】に記載。	高萩
2005-199	20061107	恩智中町 2丁目 320番の一部	長屋住宅：基礎 浄化槽(造構 確認調査)	3.0 × 4.0 m 深さ 1.9 m : 1箇所 2.0 × 2.0 案さ 0.9 ~ 1.1 m : 2箇所 (20 m <sup>2</sup> )	詳細は【4-4】に記載。	荒川
2005-200	20061107	恩智中町 2丁目 315番の一部	長屋住宅：基礎 浄化槽(造構 確認調査)	2.0 × 4.0 m 深さ 1.9 m : 1箇所 2.0 × 2.0 案さ 0.5 m : 2箇所 (16 m <sup>2</sup> )	詳細は【4-5】に記載。	荒川

#### 4-1. 恩智遺跡(2005-38)の調査 【第5図 図版5】

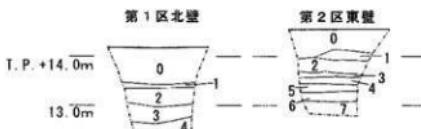
(1) 調査概要: 2 × 2 m の 2 箇所。西側を第1区、東側を第2区と呼称。調査で使用した標高値は八尾市作成地図 (1/2500) に記載されている T.P. + 13.5 m (恩智中町2丁目) である。

【地層】共に現地表下 1.8 m 前後までを観察した。第1区で5層(0~4層)、第2区で8層(0~7層)を確認した。

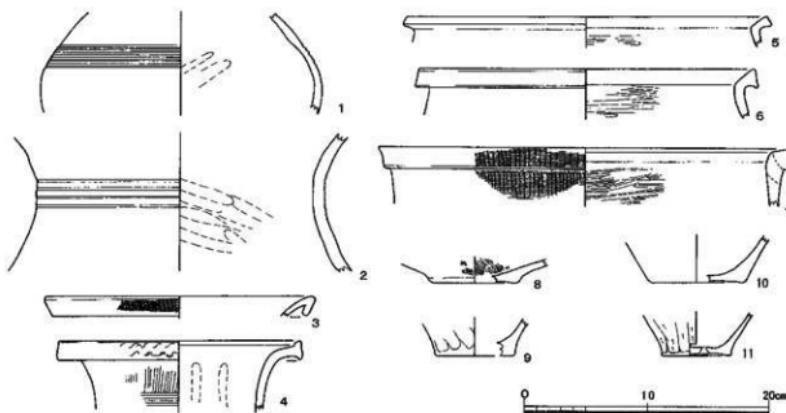
第1区: 0層は客土。層厚 70 cm 前後。下部において近代の瓦片を多く含む。1層~4層は自然河川の堆積層である。1層は 10YR6/3 にぶい黄橙色極細粒砂～中粒砂。層厚 10 cm 前後。2層は酸化鉄斑が頗るな 10YR8/1 灰白色極細粒砂～中粒砂。層厚 40 cm 前後。3層は中～大礫を含む 7.5YR7/4 にぶい橙色中粒砂～粗粒砂。層厚 25 ~ 35 cm。4層は中礫を含む 2.5Y7/2 灰黄色中～粗粒砂である。層厚は 35 cm 以上を測る。いずれの層からも遺物は出土していない。

第2区: 0層は客土。層厚 40 ~ 60 cm。1層は 10YR5/2 灰黃褐色砂質シルト。層厚 20 cm。2層は 10YR5/2 灰黃褐色砂質シルト。マンガン斑の沈着が認められる。層厚 30 cm 前後。3層は 7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルトに N4/0 灰色砂質シルトのブロック。層厚 10 cm 前後。4層は 10GY6/1 緑灰色中粒砂混沙質シルト。層厚 15 cm 前後。5層は 10GY8/1 明緑灰色極細粒砂混砂質シルト。層厚 15 cm 前後。6層は N2/0 黒色シルト質粘土。層厚 20 cm 前後。你生時代中期後半(畿内第IV様式)の土器類、石器類を濃密に含む包含層。7層は 5I6/1 灰色中～粗粒砂。層厚 30 cm 以上。弥生時代中期の造構構築面である。

【検出遺構】なし

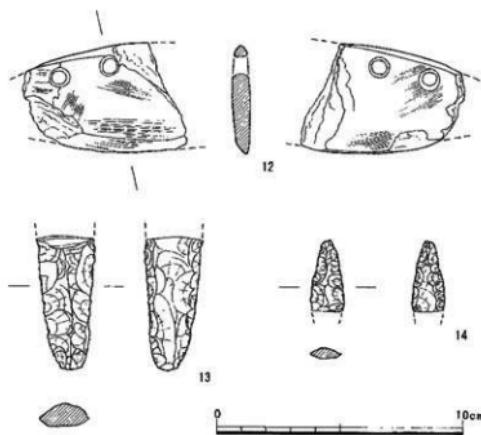


第23図 地層断面図 (S = 1/100)



第24図 出土遺物実測図-1 (S = 1/4)

(2) 出土遺物：第2区の第6層からは、弥生時代前期新段階～中期後半に比定される弥生土器・石器・サヌカイトの石材等が出土している。小破片が中心で、量的にはコンテナ約1/4程度である。14点(1～14)を図化した。1・2は広口壺で、1が中形品、2が大形品に分類される。1は体部上半に6条の沈線、2は頭部に4条の沈線を施す。共に前期新段階に比定される。3・4は広口壺である。3は下方に折れ曲がる口縁端面に簾状文を施す。4は口縁部付近で強く外反した後、上下に肥厚し幅広の端面を形成している。端面に波状文、頭部に直線文を施す。共に中期後半に比定される。5・6は甕口縁部の小片である。口縁部の形態は5が屈曲、6が屈曲し垂下する形態である。共に中期後半に比定される。7は大形鉢である。口縁部は大きく肥厚し、幅広の内傾する面を形成している。口縁端面および体部に簾状文を施す。中期後半に比定される。8～11は底部で、8が壺、9・10は甕、11は底部有孔甕である。8～11は中期後半に比定される。1～11の土器類の色調は赤褐色～褐色で、全て胎土中に角閃石を含む生駒西麓産である。12は石斧丁である。約1/2を欠く。直線刃半月形で、刃部は片刃である。紐孔は中央でなく肩部付近に2孔穿たれている。石材は緑色片岩。13は石槍で先端部を欠く。残存長5.4cmを測る。14は石鎌で基部を欠く。残存長2.8cmを測る。13・14の石材はサヌカイトである。



第25図 出土遺物実測図-2 (S = 1/2)

(3)まとめ: 第1区の自然河川については、既往調査で確認している中世段階に存在した南北方向に伸びる自然河川との関わりが想定される。第2区の6層では弥生時代中期後半(畿内第IV様式)の土器・石器類を含有する遺物包含層を確認した。当該期の集落については、昭和50~53年に瓜生堂遺跡調査会が恩智川改修工事に伴う調査、マンション建設に伴って昭和51~53年に市教育委員会が行った調査、平成13年度に(財)八尾市文化財調査研究会が行った第11次調査(OJ2001-11)で検出しており、これらの調査との有機的な関係が想定される。

(原田)

#### 参考文献

- ・田代克己他 1980 『恩智遺跡1』瓜生堂遺跡調査会
- ・森本めぐみ 2003 「IV 恩智遺跡(第11次調査)」財団法人八尾市文化財調査研究会報告75 財団法人八尾市文化財調査研究会

#### 4-2. 恩智遺跡(2005-61)の調査【第5図 図版6】

(1)調査概要:  $2 \times 2\text{m}$  2箇所。西側を第1区、東側を第2区と呼称。調査で使用した標高値は八尾市作成地図(1/2500)に記載されているT.P. + 13.5 mである。

【地層】第1区: 現地表下1.5 mまでの間で5層(1~5層)を確認した。1層が5Y5/1灰色砂質シルト。層厚40 cm前後。2層が河川堆積に伴う中粒砂を主体とする10YR7/1灰白色中粒砂。層厚30 cm前後。3層が10YR5/2灰褐色砂質シルト。層厚30 cm。4層が10YR3/1黒褐色粘土質シルトで弥生時代中期~後期の遺物を含む遺物包含層である。層厚55 cm前後。5層が5Y6/1灰色中粒砂混砂質シルトで造構ベース面を形成している。

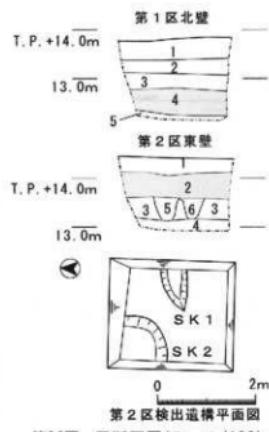
第2区: 現地表下1.5 mまでの間で4層(1~4層)を確認した。1層は第1区1層と同じ。2層は第1区の4層に対応するもので、弥生時代中期~後期の遺物を含む遺物包含層である。3層は第1区の5層に対応するベース面で、上面で弥生時代中期のSK1、SK2の造構を検出している。第2区で検出した造構構築面の標高が高く第1区との標高差は1.6 mを測る。4層は5Y5/1灰色粘土質シルトで無遺物層である。5・6層は10YR2/1黒褐色砂質シルトで、SK1とSK2の埋土である。

【検出遺構】第2区で弥生時代中期の土坑2基(SK1・SK2)を検出。

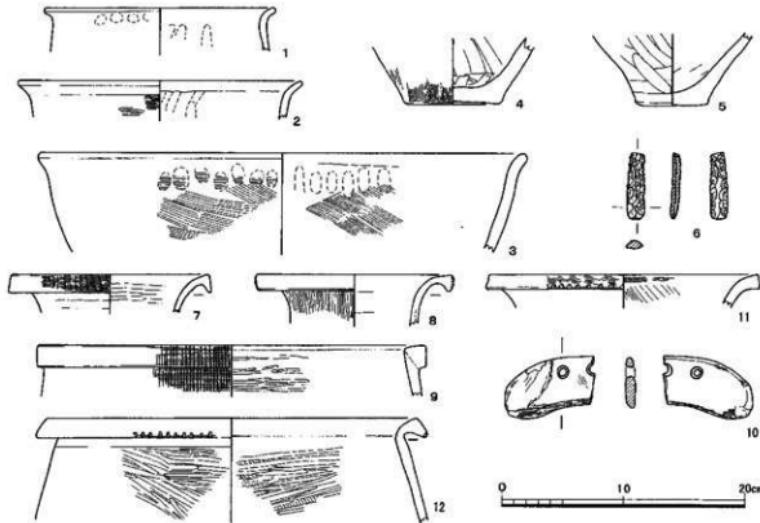
(2)出土遺物: SK-1出土遺物-6点(1~6)を図化した。1・2は甕口縁部の小破片である。共に口縁部が短く外反する如意形口縁である。3は復元口径39.6 cmを測る大形鉢である。1~3は生駒西麓産。4・5は底部で、4が壺、5が甕と推定される。共に生駒西麓産。1~5は弥生時代中期前半のものか。6はサヌカイト製の石礫で先端を欠く。平基無茎式に分類される大型品である。全体に調整剥離が施されており、側辺のエッジは鋭い。

第1区4層出土遺物-2点(11・12)を図化した。11は広口壺である。外傾する口縁端面に波状紋、口縁端面下端に刻み目が施されている。12は大形甕で、口縁部は下方に折れ曲がりや長く伸びる。口縁端面下端に刻み目が施されている。共に生駒西麓産。弥生時代中期中葉に比定される。

第2区2層出土遺物-4点(7~10)を図化した。7・8は広口壺。7は口縁部端面に簾状文、8は竹管押正円形浮文が施文されている。7が弥生時代中期後半、8が弥生時代後期前半に比定される。9は大形鉢の口縁部である。復元口径31.8 cmを測る。口縁部および体部外面に簾状文が施文されて



第26図 平断面図(S = 1/100)



第27図 出土遺物実測図 (S = 1/4)

いる。7が弥生時代中期後半に比定される。7～9は生駒西麓産。10は石庖丁で、約1/2が残存している。内湾刃形態で刃部は両刃である。紐孔は9mmで紐孔間の距離は1.5cmを測る。石材は緑色片岩。

(3)まとめ：第1・2区共に弥生時代中期～後期の遺物包含層および第2区で中期の遺構を検出した。当該期の集落については、昭和50～53年に瓜生堂遺跡調査会が恩智川改修工事に伴う調査、平成13年度に(財)八尾市文化財調査研究会が行った第11次調査で(OJ2001-11)で検出されており、これらの調査区との有機的な関係が想定される。  
(原田)

#### 参考文献

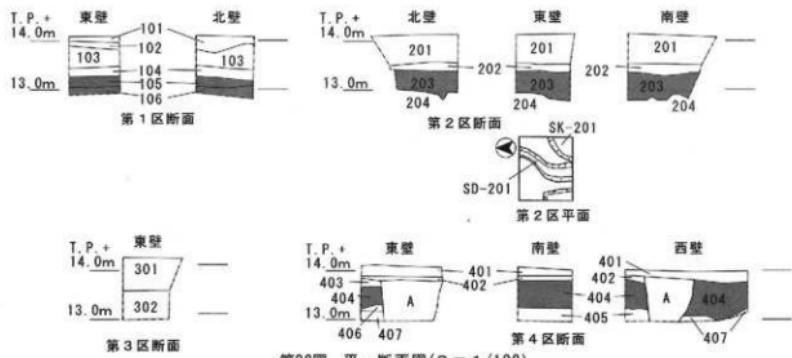
- ・田代克己他 1980 『恩智遺跡!』 瓜生堂遺跡調査会
- ・森木めぐみ 2003 「IV 恩智遺跡(第11次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告75』財團法人八尾市文化財調査研究会

#### 4-3. 恩智遺跡(2005-254)の調査【第5図 図版7】

(1)調査概要：建設予定地内の人孔部分に2m×2mの調査区を4箇所設定し、工事深度に準じて現地表(T.P.+14.0m)下約1.5m前後までの掘削を実施した。なお、調査区は北側西より第1区、北側東を第2区、南側西を第3区、南側東を第4区と呼称した。なお、第1・2区、第3・4区の間の開掘部分については、市教委による立会を行う。

<層序>第1区-6層を確認。101層は盛土。102層は客土。103層は7.5YR4/2灰褐色シルト質土。104層は7.5YR4/1褐色粘質シルト。105層は7.5Y3/1オリーブ黒色細砂。106層は705Y5/1灰黒細砂である。105・106層が弥生時代中期・古墳時代の遺物を含む層。

第2区-4層を確認。201層は現在の盛土。202層は整地層。203層は10YR2/2黒褐色粘土質シルトで、弥生時代中期～後期の弥生土器・石器等を含む。204層は2.5Y8/4浅黄色粘土質シルト。



第28図 平・断面図 (S = 1/100)

第3区 - 2層を確認。301層は現在の客土又は整地層。302層は5BG4/1暗青灰色砂礫混じり粘質土で、近世瓦を含む。

第4区 - 401層は盛土。402層は現在の客土又は整地層。403層は10YR2/1黒色細砂混シルト質土。404層は10YR8/2灰色粘土質土で、弥生時代中期～後期の弥生土器・石器等を含む。405層は10YR5/1褐灰色シルト混細砂。406層は10YR7/1灰白色粘質微砂。407層は7.5YR5/2灰褐色砂礫混じりシルト質土。A層は近世井戸と思われる。

#### <検出遺構>

第1区 - なし。105・106層内より弥生土器・須恵器が出土。

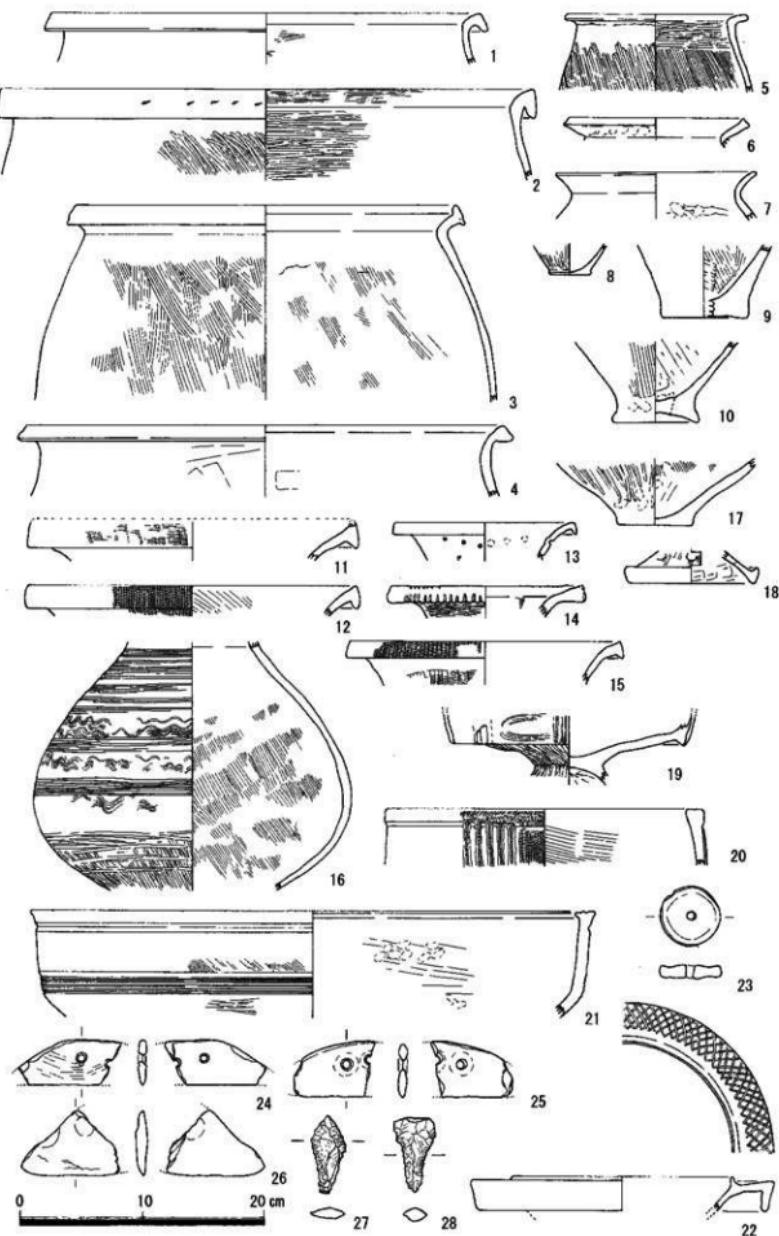
第2区 - 弥生時代の土坑状遺構 (SK-201) 1基、溝 (SD-201) 1条。SK-201は、検出部で平面半円形を呈し、東西径約0.6m、南北径0.4m以上、深さ約0.15mを測る。埋土は203層とほぼ同一層で、弥生土器の小片が少量含む。SD-201は、東西方向に走る溝で、幅0.2～0.3m、深さ約0.15m、検出長約1.5mを測る。埋土は203層とほぼ同一層で、弥生土器の小片が少量含む。203層内より弥生時代中期～後期の弥生土器・石器(石包丁・石鎌・サヌカイト剥片)等が出土。

第3区 - 302層内より近世の平瓦片が出土。

第4区 - 近世の井戸状遺構 (SE-401) 1基。SE-401は南北径約0.9m、深さ1.1m以上。302層内より近世の平瓦片が出土。

(2) 出土遺物: 第1～4区及び開掘部分からコンテナにして2箱分を出土した。このうち弥生時代中期を中心とする弥生土器(畿内第III～IV様式)が8割以上を占める。以下、図化できたものについて記す。

1～10は壺で、1～4は大型の壺。5は大きく「く」の字に屈曲する口縁部。6は「く」の字に屈曲し、まっすぐに伸びる口縁部に、上につまむ端部をもつ。7は丸く外反する口縁部をもつ。8・9は平底の底部片で、8は小型。10は上げ底の底部片である。すべて生駒西麓産の胎土を有する。すべて中期後半に属す。11～15は大きく開く口縁をもつ壺で、11・12・15は口縁に廉状文が施されている。13は外面には刺突孔が施される。16は壺の体部で、外面に直線文と波状文を施す。17は平底の壺で、生駒西麓産の胎土を有する。18・19・22は高杯で、中期後葉以降。22は受部状に垂下する端部のある杯をもち、受部面に格子状ヘラミガキを施す。生駒西麓産の胎土を有する。20・21は鉢。21は回線文3条施す。23は紡錘車で、全体にナデ調整を施す。24～26は直線刃の半月形の石包丁で半損品である。24・25は縫泥片岩製、26は泥岩製である。27・28はサヌカイト製の石器で、27は有茎式の石鎌で、両側辺に調整剥離を加えて調整している。28は石錐で横長剥片に調整を加えて成形。



第29図 出土遺物実測図 (1~26 S = 1/4 27・28 S = 1/2)

遺物 番号	区名	器種	法量(復元径)	胎土	色調	残存	備考
1	2区	弥生土器 瓢	口径: (5 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m/4 暗灰色 内: 10m/5/4 にぶい 黄褐色	口縁部 1/10	
2	4区	弥生土器 瓢	口径: (5.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 10m/5/4 にぶい 黄褐色	口縁部 1/10	
3	4区	弥生土器 瓢	口径: (5.1 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 10m/5/4 にぶい 黄褐色	口縁部 1/4	
4	開闢6	弥生土器 瓢	口径: (5.9 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m/4 暗灰色	口縁部 1/8	
5	2区	弥生土器 瓢	口径: (14.4 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 7.5m/4 暗灰色 内: 7.5m/5 2次褐色	口縁部 1/6	
6	2区	弥生土器 瓢	口径: (12.2 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 10m/5/3 にぶい 黄褐色 内: 10m/7/2 にぶい 黄褐色	口縁部 1/6	
7	1区	弥生土器 瓢	口径: (16.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 9.5m/4 にぶい 黄褐色	口縁部 1/6	
8	開闢5	弥生土器 瓢	口径: (3.3 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 2.5m/4 暗黄色 内: 10m/7/2 にぶい 黄褐色	底部 1/2	
9	3区	弥生土器 瓢	底径: (6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m/5/4 にぶい 暗褐色	底部 1/2	
10	4区	弥生土器 瓢	口径: (6.7 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 10m/5/3 にぶい 黄褐色 内: 10m/2/1 黑色	底部 1/2	
11	開闢5	弥生土器 瓢	口径:	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m 暗色	口縁部 1/8	
12	2区	弥生土器 瓢	口径: (25.8 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 9m/3 暗色 内: 7.5m/5/3 にぶい 暗褐色	口縁部 1/10	
13	2区	弥生土器 瓢	口径: (14.6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m 暗色	口縁部 1/6	
14	2区	弥生土器 瓢	口径: (15.6 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m/3 暗色	口縁部 1/6	
15	開闢6	弥生土器 瓢	口径: (22.1 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 7.5m/3 にぶい 暗褐色	口縁部 1/6	
16	4区	弥生土器 瓢	口径: (23.2 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 10m/5/4 にぶい 黄褐色	体部 1/4	
17	2区	弥生土器 瓢	底径: (5.5 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 10m/5/3 にぶい 黄褐色	底部のアマ	
18	2区	弥生土器 高杯	口径: (10.0 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 10m/7/2 にぶい 暗褐色	口縁部 1/6	
19	1区	弥生土器 高杯	-	角閃石・長石・雲母	内: 10m/7/2 にぶい 黄褐色	杯部 1/4	
20	2区	弥生土器 鉢	口径: (25.6 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 7.5m/5/1 暗灰色 内: 7.5m/7/3 にぶい 暗色	口縁部 1/12	
21	4区	弥生土器 鉢	口径: (45.0 cm)	角閃石・長石・雲母	外: 7.5m/7/6 浅灰色 内: 7.5m/7/1 明黄褐色	口縁部 1/10	
22	2区	弥生土器 高杯	口径: (18 cm)	角閃石・長石・雲母	内外: 2.5m/7/3 浅黄色	口縁部 3/4	
23	2区	弥生土器 筋 鏡車	径: 4.9 cm 厚み: 1.1 cm 尖孔: 1.5 cm	角閃石・長石・雲母	内外: 2.5m/7/3 浅黄色	口縁部 1/4	
24	2区	石器 石包丁	幅: 2.7 cm 厚み: 6.5 cm	-	7.5m/1 灰色	1/2	
25	2区	石器 石包丁	幅: 2.7 cm 厚み: 7 cm	-	7.5m/1 灰色	1/2	
26	開闢6	石器 石包丁	幅: 5.4 cm 厚み: 9 cm	-	10m/5/1 灰色	1/3	
27	2区	石器 石鍬	長さ: 3.2 cm 厚み: 4.2 cm	-	7.5m/1 灰色	完形	
28	2区	石器 石鍬	長さ: 3.0 cm 厚み: 5.5 cm	-	7.5m/1 灰色	ほぼ完形	

(3)まとめ: 今回の調査では、第1区と第2区で厚く堆積する弥生時代の遺物包含層を確認した。包含層内には弥生時代中期～後期の弥生土器・石器類が多数含まれていた。また、遺構の存在も確認された。さらに調査地の北部及び南部で行われた遺構確認調査でも厚く堆積する弥生時代の遺物包含層を確認しており、広範囲に存在することが予想される。

第3区では近世の瓦を含む層。第4区では弥生時代の遺物包含層を切り込んで掘られた片戸状遺構が検出しており、当地が近世から居住城として利用されていたことがうかがわれる。(高萩千秋)

#### 参考文献

- ・岡代克己他 1980 『恩智遺跡I』 猪生窯遺跡調査会
- ・嶋田友子 1987 『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書I－恩智遺跡の調査－』 八尾市教育委員会
- ・森本めぐみ 2003 「IV 恩智遺跡(第11次調査)」 『財團法人八尾市文化財調査研究会報告75』 財團法人八尾市文化財調査研究会

#### 4-4. 恩智遺跡(2005-199)の調査【第5図 図版8】

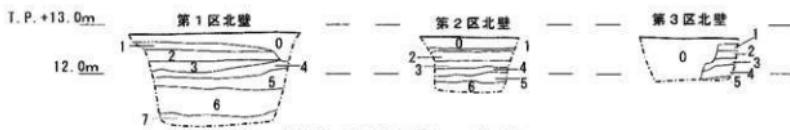
(1) 調査概要：浄化槽設置部分に1箇所( $3.0 \times 4.0\text{ m}$ )、住宅建設予定地内に $2.0 \times 2.0\text{ m}$ 2箇所の合計3箇所。総面積 $20.0\text{ m}^2$ 。東から第1区～第3区と呼称。調査で使用した標高値は、八尾市作成地図(1/2500)に記載されている標高値(調査地の西側約50mの道路上:海拔12.4m)を使用した。

第1区は現地表下1.9mまで掘削したところで、壁面崩落が予見されたため、以下の掘削を断念せざるを得なかった。

##### 【地層】

- 0層：盛土・客土・搅乱埋土
- 1層：2.5Y4.5/2 砂混じる砂質シルト層
- 2層：10YR4/2 砂質シルト層(上部は酸化鉄分、下部は酸化マンガン斑沈着)
- 3層：10YR4/3 砂質シルト層
- 4層：10YR4/4 砂質泥層(シルト寄り)
- 5層：10YR5/4 砂質泥層(礁は径5cm程度までのものを主に上部に含む)
- 6層：2.5Y4/2 泥質砂礫層(礁は径15cm程度まで)
- 7層：5Y3/1 泥質砂礫層

【検出遺構】なし



第30図 地層断面図(S=1/100)

(2) 出土遺物：第1区の6・7層より弥生土器と見られる土器片少量。このうち1点(1)を図化した。1は弥生土器壺。頸部と見られる小片。外面に5mm前後の間隔を持つ多条沈線を施し、沈線間に細かい縦方向の刻み目を施す。内面の器面調整は、不明瞭。胎土中に生駒西麓産の角閃石を含む。弥生時代前期新段階。



第31図 出土遺物実測図(S=1/4)

(3) まとめ：2層以下は無層理の砂質泥層・泥質砂礫層で、上方(東側?)から流れ込んだ泥流堆積物と見られ、かつては周辺より低い谷状の地形であったと推測される。  
(荒川和哉)

##### 参考文献

- ・田代克己他 1980 『恩智遺跡!』瓜生家遺跡調査会

#### 4-5. 恩智遺跡(2005-200)の調査【第5図 図版8】

(1) 調査概要：浄化槽設置部分に1箇所( $2.0 \times 4.0\text{ m}$ )、住宅建設予定地内に $2.0 \times 2.0\text{ m}$ 2箇所の合計3箇所。総面積 $16.0\text{ m}^2$ 。北から第1区～第3区と呼称。調査で使用した標高値は、八尾市作成地図(1/2500)に記載されている標高値(調査地の西側約80mの道路上:海拔12.4m)を使用した。

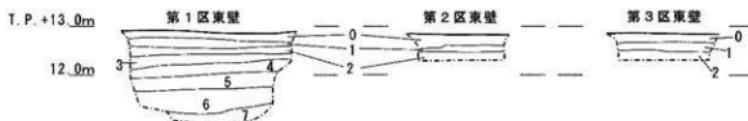
第1区は現地表下1.9mまで掘削したところで、壁面が崩落したため、以下の掘削を断念せざるを得なかった。

### 【地層】

- 0層：盛土・客土・搅乱埋土  
 1層：2.5Y4.5/2 砂混じる砂質シルト層（第1区）  
 2.5GY3/1 砂混じる砂質シルト層（第2・3区）  
 2層：10Y4/2 砂礫質シルト層（上部は酸化鉄分、下部は酸化マンガン斑沈着）（第1区）  
 2.5Y4/1 泥質砂礫層（第2・3区）  
 3層：10Y4/3 砂礫質シルト層  
 4層：10Y4/4 砂礫質泥層（シルト寄り）  
 5層：10Y5/4 砂礫質泥層（礫は径10cm程度までのものを主に上部に含む）  
 6層：2.5Y4/2（下部は5Y3/1を呈する）泥質砂礫層（礫は径15cm程度まで）  
 7層：5Y3/1 泥質砂礫層

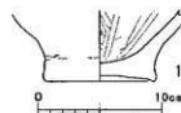
### 【検出遺構】なし

【出土遺物】第1区の5層より弥生土器を含む土器片少量。中1点は、壺の底部と見られる。



第32図 地層断面図(S=1/100)

(2) 出土遺物：弥生土器壺(1)。底部～体部下半の一部。突出した平底で裏面は窪み、斜上方に立ち上がる体部を持つ。器面調整は、外面は横ナデを多用し、内面は縦方向の単位幅の狭い工具によるナデを施す。内外面に、一部板状工具痕が残る。外底面には指押えナデを施す。胎土中に生駒西麓産の角閃石を含む。弥生時代前期ないし中期のものか。



第33図 出土遺物実測図(S=1/4)

(荒川)

(3) まとめ：2層以下は無層理の砂礫質泥層・泥質砂礫層で、上方（東側？）から流れ込んだ泥流堆積物と見られ、かつては周辺より低い谷状の地形であったと推測される。

### 参考文献

- 高萩千秋 1989 「三恩寺遺跡（第1次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』（財）八尾市文化財調査研究会報告23（財）八尾市文化財調査研究会

### 5. 楽音寺遺跡【第6図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-327	2005.12.1	楽音寺3丁目 12番・13番	個人住宅：浄化槽（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	T.P.+16.5以下砂層。 遺物なし	西村

### 6. 龍井遺跡【第6図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法（面積）	調査結果	担当
2005-344	2006.12.12	龍井町1丁目 22番2	分譲住宅：人孔（遺構確認調査）	2.0×2.0m深さ2.0m： 3箇所(12m <sup>2</sup> )	T.P.+8.8m前後で、 中世の遺構を1箇所検出。 土器破片出土	西村

## 7. 莢振遺跡 【第6図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-49	20050629	緑ヶ丘1丁目6番の一部	分譲住宅:人孔(道幅確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m:2箇所(8m <sup>2</sup> )	詳細は「7-1」に記載。	植口
2005-99	20050719	萱振町4丁目38-4、38-7、44-9	分譲住宅:人孔(道幅確認調査)	1.5×1.5m深さ1.2~1.8m:3箇所(6.75m <sup>2</sup> )	T.P.+5.4~4.3m砂層。河川遺物なし。	原田

### 7-1. 莢振遺跡(2005-49)の調査 【第6図 図版9】

(1) 調査概要:規模約2.0×2.0m、面積約4.0m<sup>2</sup>2ヶ所(西から第1・2区)について、現地表(T.P.+7.1~7.5m前後)下2.0m前後までを調査。レベル高は、八尾市作成1/2500地図に記載のレベル高値(調査地北東部に位置する市道のセンター:T.P.+7.0m)を使用した。

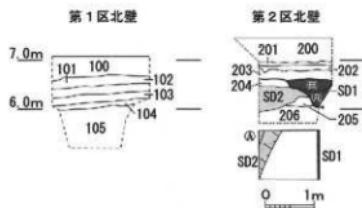
【地層】(第1区)現地表(7.1m)下0.4m

前後までは、客土・盛土(100層)。以下現地表下2.0m前後までの1.6m間において5層の地層を確認した。101・102層はにぶい褐色へにぶい黄橙色粘土質シルトへシルト。土師器や瓦器細片が混在する硬く縮まった地層で、整地層の可能性が高い。103層は灰黃褐色粘土質シルト。104層は褐色粘土質シルトへ細粒砂。下位に堆積する105層水成層の土壤化部分に相当。古墳時代前期に比定される。

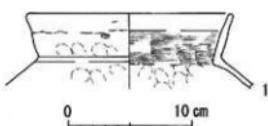
106層は褐灰色粗粒砂へ極粗粒砂。水平ラミナ構造が発達している。(第2区)現地表(7.5m)下0.5m前後までは、客土・盛土(200層)。以下現地表下2.0m前後までの1.5m間において6層の地層を確認した。201層は灰色粘土質シルト(旧耕作土)。202層はオーリープ灰色粘土質シルト。グライ化の進行した攪拌層で、水田耕作土と推測される。203層は黄灰色粘土質シルト。土師器細片が混在する。204層は黒褐色粘土質シルト。土壤化層である。205層はにぶい黄橙色シルト。下位に堆積する206層水成層の土壤化部分に相当する。206層はにぶい黄色粘土質シルトへシルト。水成層である。

【検出遺構】第2区において溝を2条検出した。SD1は204層より構築(203層下面検出遺構の可能性あり)の、南北方向に直線的に伸びる溝と推測される。本調査では西肩を検出したのみで、規模等は不明な点が多い。埋土は2層のブロック土から成る。埋土には土師器や須恵器の細片が混在するが、時期は不明。SD2は204層下面で検出の南北-北東方向に直線的に伸びる溝と推測される。本遺構も東肩を検出したのみで、不明な点が多い。埋土はブロック土(土師器細片混在)の単層である。

(2) 出土遺物:なし。ただし、今回設定した調査区(第1・2区)を結ぶ開削部分について、市教委が立会調査を実施したところ、古式土師器細片が数片出土した。これらの遺物は、SD2に伴う遺物の可能性が高い。以下では、図化できた壺(1)について概説を行う。1は古式土師器壺の口縁端部～肩部細片。口縁部は直線的に上方方に伸び、端部は丸く終わる。頸部内面の屈曲は比較的鋭利である。調整は、外表面が口縁部～肩部:指頭成形後横ナデ、内面が口縁端部:横ナデ、口縁部:横ナデ/ケナデ(9~10本/cm)、肩部:指頭成形である。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈し、胎土には極粗粒砂へ2mm大細礫が混在する。全体的に作りは粗雑で、粘土接合痕が目立つ。



第34図 出土遺物実測図(S=1/100)



第35図 出土遺物実測図(S=1/4)

(3)まとめ：本調査地の南東方面では、これまでに府教委と当調査研究会による調査が行われ、古墳時代初頭～前期の居住域や墓域、後期の古墳、鎌倉時代の礎石を中心とした生産関連遺構等を検出した。本調査でも第2区で溝を2条検出、この内SD2は、河川堆積物が土壤化した段階で構築された遺構の可能性が高く、既往の成果を参照すると古墳時代初頭～前期に帰属時期を求めることが可能である。またSD1は、SD2を切っていることから、古墳時代前期よりは新しい遺構であり、したがって、古墳時代後期～中世のいずれかに属すると推測される。(通口)

#### 参考文献

- ・西村公助 1990 「董坂遺跡発掘調査概要報告 - 第2次・第3次発掘調査-」『(財)八尾市文化財調査研究会報告20』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・大野 薫他 1983.3『掌根遺跡発掘調査概要 I 八尾市緑ヶ丘2丁目所在』大阪府教育委員会

### 8. 木の本遺跡【第6図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-154	20050825	南木の本5丁目 60-1・60-2 番	分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	1.5×1.5m深さ1.6m： 1箇所(2.25m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし	原田
2005-274	20051124	南木の本八丁目 128番・129番	共同住宅：基礎 淨化槽(遺構確認調査)	2.85×4.1m深さ3.0m： 2箇所2.5×2.5m深さ 2.5m:2箇所(21.185m <sup>2</sup> )	T.P. + 9.2~9.3m粘 土層。古代型水田に 相当する。遺物なし	坪田

### 9. 久宝寺遺跡【第7図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-37	20060610	久宝寺1丁目 206番3・205番 1の一部	分譲住宅：人孔(遺構確認調査)	1.5×1.5m深さ2.0m： 4箇所(9m <sup>2</sup> )	T.P. + 7.0m前後砂 層。河川堆積。遺物な し	通口
2005-3	20060623	久宝寺6丁目25 番1	分譲住宅：人孔(遺構確認調 査)	2.0×2.0m深さ1.4m： 2箇所(8m <sup>2</sup> )	T.P. + 6.5m砂層。河 川堆積。遺物なし	原田
2005-191	20060902	久宝寺1丁目 52-1	個人住宅：基礎(遺構確認調 査)	2.0×2.0m深さ2.5m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	T.P. + 6.0~7.3m砂 層。遺物なし	高萩
2005-144	20060912	南久宝寺1丁目 1番2の一部・1 番3	分譲住宅：人孔(遺構確認調 査)	2.0×2.0m深さ1.5~ 2.0m:8箇所(32m <sup>2</sup> )	平安～中世遺物出土。	岡田

### 10. 久宝寺寺内町【第7図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2004-431	20060713	久宝寺4丁目 55-1・57-1の 一部	分譲住宅：人孔(遺構確認調 査)	2.0×2.0m深さ2.0m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	近世後半-清。近世後 半-陶磁器類、屋瓦	原田

### 11. 郡川遺跡【第8図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-137	20060920	堀内1丁目25 番2	民家住宅：浄化槽(遺構確認 調査)	2.5×2.5m深さ2.5m： (6.25m <sup>2</sup> )	T.P. + 9.5~10.0m 砂層。遺物なし。	高萩

## 12. 小阪合遺跡 【第8図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-44	2005.6.6 - 6.7	若草町 井戸 10 号	病院: 基盤(遺構確認調査)	3.0 × 3.0 m 深さ 3.0 ~ 4.0 m: 10 箇所 (90 m <sup>2</sup> )	詳細は[12-1]に記載	原田

### 12-1. 小阪合遺跡(2005-44)の調査 【第8図 図版10】

(1) 調査概要:建設予定地内に3m四方の調査区を10箇所(第1~10区)設定した。掘削深度は1・2・5・6区が現地表下4m、3・4・7~10区は現地表下3m迄の掘削を実施した。調査で使用した標高値は八尾市作成(1/2500)に記載されているT.P. + 8.1 m(若草町)である。

【履歴】各調査区ともに1~3層(T.P. + 7.8 ~ 7.0 m)までは褐色系で砂質シルトが優勢な層相で、土師器・須恵器・瓦器を含む地層である。各層ともに奈良時代以降の遺構ベース面になるものと考えられる。第2~4区ではT.P. + 7.0 ~ 6.3 mで河川に関連した堆積層(第2区~5層、第3区~4~1~4~5層、第4区~4層)を検出した。調査地の北西部では、府センター調査の98-5・6区で大量の朝潮十二錢等が出土した奈良時代の川200・川719が検出されており、この河川に続くものと推定される。第3区付近が河川の流芯部と推定され、第3区の4~5層からは奈良時代に比定される土師器・須恵器・屋瓦等の遺物が出土している。第5~10区においては、第6区のT.P. + 7.15 mを最高点とする洪沢砂層(第6区~5~8層、第7区~12~13層、第8区~9~10層、第9区~12~14層、第10区~8~9層)を検出した。第9区の南壁では、自然堤防状を呈する部分が認められた。同洪沢砂層は府センター調査の02-2・3区でも検出されており、いわゆる小阪合分流路跡の流路充填堆積物と推定される。本調査では第9区の14層から古墳時代初期の上師器が極少量出土したのみであるが、府センターの02-2・3区では古墳時代前期後半(布留式新相)以前の遺物が出土している。洪沢砂層が存在しない第1~4区については、第1区で6層以下、第2区で8層以下、第3区で5層以下、第4区で6層以下が粘土・粘土質シルトが優勢な層相の連続で遺物の出土は皆無である。

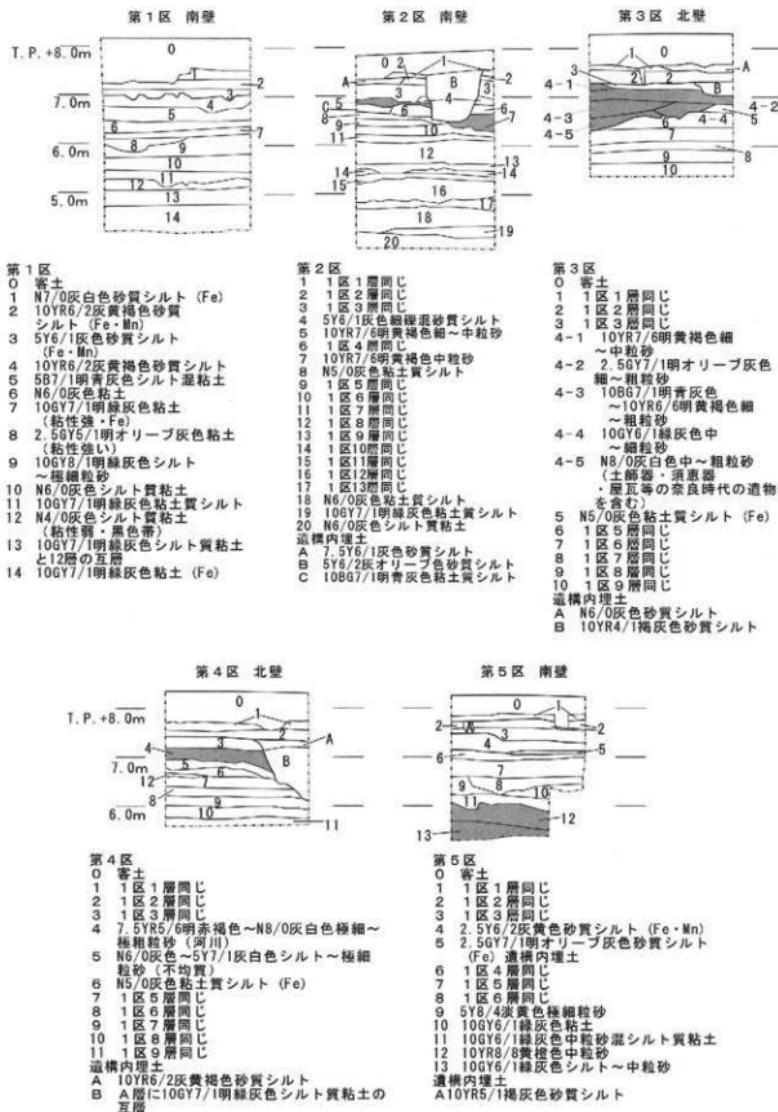
(2) 出土遺物: 5点(1~5)を図化した。1~4は第3区で検出した自然河川の埋土である4・5層から出土した。1・2が上師器杯、3が十師器碗である。4は須恵器葉壺の蓋で約1/4が残存している。天井部の外面に自然釉が附着している。1~4は平安時代前期。5は東四国系の古式土師器碗で、第9区で検出した自然河川の堆積層である14層から出土した。胎土からみて讃岐地方を中心とする「下川津B類」碗と推定される。時期的には古墳時代前期前半(布留式古相)のものか。

(3) まとめ: 各調査区の1~3層において奈良時代以降の遺構ベース面を確認した。第5~10区においては、いわゆる小阪合分流路跡の流路充填堆積物と推定される地層の広がりが確認できた。

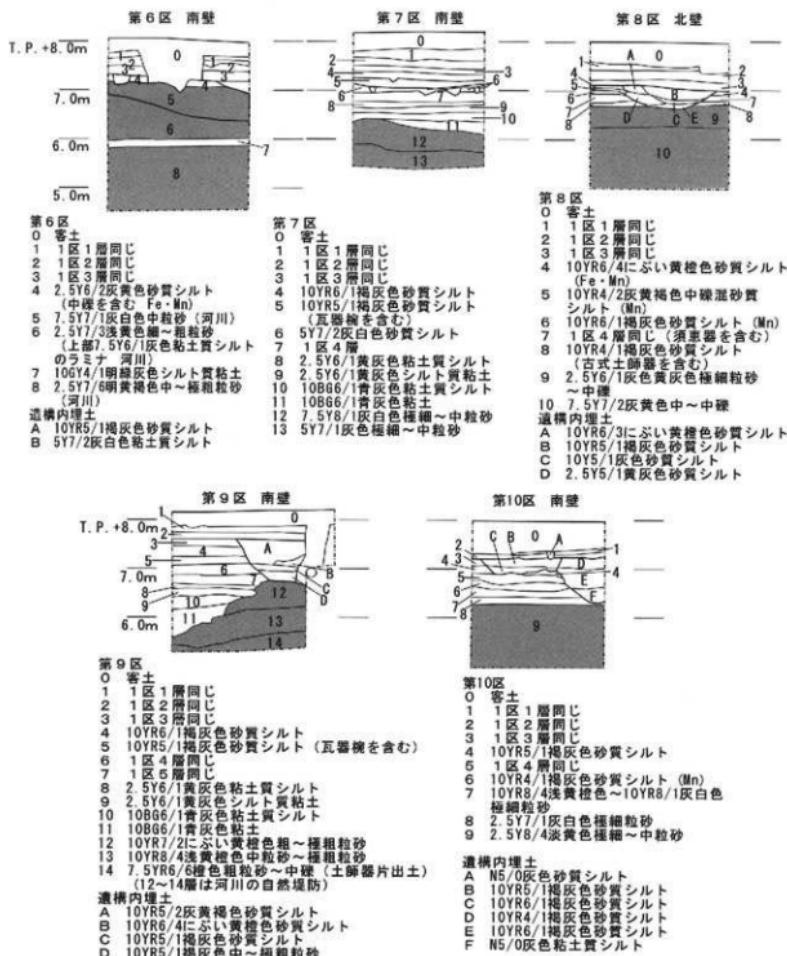
(原田)

#### 参考文献

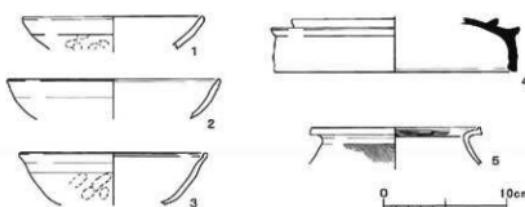
- ・鶴井正明他 2000 『八尾市若草町所在 小阪合遺跡 都市基盤整備公団八尾团地建替えに伴う発掘調査報告書』
- （財）大阪府文化財調査研究センター-調査報告書 第51集 （財）大阪府文化財調査研究センター-
- ・本間元樹他 2004 『八尾市 小阪合遺跡(その2) 八尾团地(建設)埋蔵文化財発掘調査(第2次)』（財）大阪府文化財センター-調査報告書 第116集 （財）大阪府文化財センター-
- ・金光正裕他 2005 『八尾市 小阪合遺跡(その3) 山本团地建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告』（財）大阪府文化財センター-調査報告書 第132集 （財）大阪府文化財センター-



第36図 第1～5区地層断面図(S=1/100)



第37図 第6~10区地層断面図 (S = 1/100)



第38図 出土遺物実測図 (S = 1/4)

### 13. 佐堂遺跡 【第8図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2006-170	2006/11/09	東広町4丁目56番地の一棟	共同住宅:基礎(造構確認調査)	2.5×2.5m深さ2.5~3.0m:2箇所(12.5m <sup>2</sup> )	T.P.+6.6前後土壤化層。古代木へ中世か?遺物なし。	坪田

### 14. 成法寺遺跡 【第8・9図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-86	2005/06/20	高安町1丁目64番1	分譲住宅:人孔(造構確認調査)	1.5×3.0m深さ1.5m:2箇所(9m <sup>2</sup> )	造構・遺物なし	西村
2004-448	2005/09/04	昭光園1丁目22,23の一部	グループホーム建設:基礎(造構確認調査)	3.0×3.0m深さ3.0:2箇所(18m <sup>2</sup> )	造構・遺物なし	岡田

### 15. 田井中遺跡 【第10図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-299	2005/12/14	田井中3丁目64番1,64番5,64番6,65番2	分譲住宅:人孔(造構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m:2箇所(8m <sup>2</sup> )	雜食時代初期相当の水田作上標出。遺物なし	坪田

### 16. 高安古墳群 【第9図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2004-376	2005/05/18	恩智町5丁目14及び15の一部	本堂・集会所建設:瓦礫(造構確認調査)	1.0×1.0m深さ1.0m:2箇所(2m <sup>2</sup> )	造構・遺物なし	樋口
2004-211	2005/07/29 ~09/01	黒谷4丁目6番 ・14番・15番・16番・17番の一部 ・36番5・131番 ・2・139番から152番・153番の一部 ・157番・160番の一部・161番の一部 ・162番から171番・172番の一部	分譲住宅:基礎(造構確認調査)	第1~13区13箇所(262m <sup>2</sup> )、規模は本文中に記載した。	詳細は[16-1]に記載。	西村 高萩
2005-88	2005/08/18 ・24・29・30	葛川六丁目165番	分譲住宅:駐車場(造構確認調査)	2.0m×2.0m深さ1.3m:2箇所(8m <sup>2</sup> )	土師器、須恵器の破片 少墨山土。	原田

### 16-1. 高安古墳群(2004-211)の調査 【第9図 図版11~14】

(1) 調査概要: 計画地内に13箇所の調査区を設定し調査を行った。調査順に第1区~第13区と呼称する。第1区は調査地のほぼ中央に位置する。第1区の北西側に第2・5・7区、南側に第8区、南西側に第3・11・12・13区、南東側に第4-1・4-2・4-3・4-4・6-1・6-2・9・10区が位置する。

レベル高は八尾市作成1/2500地図に記載されている航(調査地の南西側約100m地点:T.P.+59.8m)を使用した。なお、調査中に新たなT.P.値(調査地の北東隅:T.P.+57.380m)が判明したためこれを最終的に採用することとした。(以前の数値より-1.539m低い数値が新たなT.P.値である。)したがって、記録した図面のT.P.値は新たな値に記入しなおした。

第1区(規模1×8m):現地表(東側T.P.+44.9m・西側T.P.+42.5m)下約2.0mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は硬くしまった10YR7/8黄橙色細緻で、地山層と思われる。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第2区(規模3×5m):現地表(東側T.P.+45.5m・西側T.P.+44.1m)下約1.5mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。西端のT.P.+44.1mには径約50cmの石が存在しており、遺構に伴うもの可能性があると思われた。しかし、この石の裏側(東側)で、昭和か平成年代の土嚢袋が出土したため、本来この場所に構築された遺構に伴う石ではないことが判明した。

第3区(規模1×7m):現地表(東側T.P.+53.6m・西側T.P.+53.3m)下約1.7mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第4-1区(規模1×18m):現地表(南側T.P.+51.8m・北側T.P.+47.5m)下約2.0mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は10YR3/1黒褐色細礫混粘土、2層は10YR5/8黄褐色細礫混粗粒砂で、土石流堆積と考えられる。3層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。4層は7.5YR5/6明褐色粗粒砂混粘土。5層は7.5YR4/1褐色細礫混粗粒砂である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第4-2区(規模1×5m):現地表(T.P.+51.5m)下約1.5mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第4-3区(規模1×4m):現地表(T.P.+50.7m)下約1.5mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第4-4区(規模1×7m):現地表(南側T.P.+50.2m・北側T.P.+47.7m)下約1.0mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は7.5YR5/8明褐色中～細礫の地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第5区(規模1×16m):現地表(東側T.P.+42.3m・西側T.P.+41.9m)下約2.7mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層は10YR5/8黄褐色細礫混粘土。2層は10YR6/4明黄褐色細礫混粗粒砂。3層は7.5YR5/8明褐色細礫混粗粒砂。4層は7.5YR3/3暗褐色細礫。5層は10YR7/6明黄褐色粗粒砂。6層は2.5Y6/8明黄褐色粗粒砂。7層は10YR4/6褐色細粒砂混粗粒砂。8層は10YR6/8明黄褐色中～細礫。9層は10YR2/3黒褐色粗粒砂混粘土。10層は7.5YR5/8明褐色細礫混粘土。11層は10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂混粘土。12層は7.5YR3/3暗褐色細礫混粘土。13層は10YR4/2灰黄褐色細粒砂混粘土。14層は10YR5/1褐色細礫混粘土。15層は7.5YR3/4暗褐色細礫混粗粒砂。8層は地山層である。この層上面から南北方向に伸びる溝1条(S D 501)を検出した。S D 501は東西方向に伸び幅5.0mを測る。断面形状は深い逆台形で、深さ約0.5mを測る。埋土は上からI 10YR6/6明黄褐色細礫混粘土、II 7.5YR2/1黒色粗粒砂混粘土、III 10YR3/4暗褐色細礫混粘土、IV 2.5YR6/6明黄褐色細粒砂混粘土で、溝の西肩には拳大～人頭大程度の石が貼り付いていた。

第6-1区(規模1×16m):現地表(東側T.P.+58.3m)下約2.0mまでを調査した。0層はコンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土である。1層10YR5/8黄褐色細礫混粘土、2層2.5Y6/6明黄褐色細礫混粘土、3層10YR4/6褐色細～中礫、4層5Y4/1灰色細粒砂混粘土。調査区南側で0.7～1.0m程度の石が南南西方向に2個並んでいることを確認した。西側は面取りがなされ、面は傾いた状態で置かれており、古墳の石室である可能性が高いと考えられる。また、並んだ石の東側は4層が堆積し、拳大～人頭大の石がまばらに見られ、これらの石は古墳に作る石室の奥込めの石であると思われる。2個並んだ石(東側玄室袖部付近)の北側のT.P.+56.1～+56.2m付近では鉄製品と6世紀前半に比定できる須恵器の杯蓋が出土した。

第6-2区(規模4×7m):第6区で検出した石の部分を北西側に拡張した調査区で、古墳の玄室及び羨道を確認した。石室は片袖式横穴式石室である。石室は南南西の方向に開口している。玄室長3.2m、同幅2.2m、羨道長1.2m以上、同幅1.1mを測る。玄室は最下段の右が残っていたが、北西側の最下段の石は抜き取られていた。また、羨道部分も、最下段の右が残っていた。玄室および羨道部の上部の右は後世の掘削により破壊されていた。玄室には巨石が2個倒れ込んでいた。これらの巨石は、天井石または側壁の石と思われる。なお、玄室床面より10～20cmほどの奥壁では須

須恵器が、東壁では須恵器が出土している。

第7区（規模2×5m）：現地表（T.P. + 41.5m）で巨石が1個露出している部分の調査を行った。東壁の地層は0層コンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土。1層10Y2.5Y 2/1 黒色粗粒砂混粘土、2層10YR4/4 黄褐色細礫混粘土でこぶしへ人頭大の石含む。3層10YR7/8 黄橙色細礫の地山層、4層2.5Y3/2 黑褐色細礫混粘土で、こぶしへ人頭大の石含む。5層5Y5/8 明赤褐色細礫混粘土で、こぶし大の石含む。2・4・5層は石室の裏込めの埋土である。残っている巨石の東西幅は0.6m、南北幅は1.2m、厚み0.6mを測り、西側に面をもつ。この石の南側では石が抜き取られた痕跡があった。残っていた石と同等規模の石が存在していたと思われる。北側は奥壁の石の抜き取られた跡があった。裏込めとして使用した人頭大の石3個が東側に残っていた。東壁と奥壁の裏込めの掘形は検出部約0.8m幅測る。下部は地山を削って築造されていることが判明した。残っていた巨石は東壁の一一番奥のものであることがわかった。また北部に表土下より切り込みがある土坑が裏込めの掘形を切った状態で検出できた。十坑は検出部で半円形を呈し、深さ1.6mを測る。底付近から拳大の石とともに近世以降の瓦（平・丸）片が出土している。また、第7区周辺では、表探ではあるが黒色土器碗が1点出土している。

第8区（規模1×20m）：現地表（東側T.P. + 58.3m 西側T.P. + 56.5m）下約2.0mまでを調査した。北壁の地層は、0層コンクリートの破片などの産業廃棄物を含む盛土。1層10Y5/8 黄褐色大礫混細礫、2層7.5YR3/4 暗褐色大礫混中礫。3層10YR5/6 黄褐色細礫混粗粒砂。10YR6/8 明黄褐色細礫混粗粒砂である。1～3層は礫を混ぜた上を突き固めた古墳の墳丘埋土の可能性を考えられる。4層は地山の土で、T.P. + 58.6m付近から南西側に下がる急斜面をもつ地形であることがわかった。東端から約5m地点のT.P. + 57.5m付近では径約50cm程度の石が存在していることを確認した。この石は地山に突き刺すように貼り付いていた。この石から南西側に約1mの範囲について石の並びの有無を確認するために人力で鋸削した。しかし、石は並んでいないことが判明した。

第9区（規模3×東西10m・南北7m）：現地表（東側T.P. + 58.3m 西側T.P. + 57.5m）下約1.0～3.0mまでを調査した。第8区とはほぼ同じ堆積である。調査区のL字コーナーより北側へ落ちる尾根の先端部を確認した。東西トレンチの第1層からは6世紀末ごろの須恵器甕・杯身片が出土。また、東西トレンチの北西へ下がる落ちの地山肩直上（T.P. + 56.8m付近）からは、須恵器の破片や円筒埴輪の底部の破片が出土した。

第10区（規模2×5m）：現地表（T.P. + 58.0m）下約3.2mまでを調査した。0層は盛土。1層は7.5YR4/2 黄褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。2層は10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の地山層である。SK 1001は調査区の南側で検出した。遺構の南側は調査区外に至るために規模は不明である。検出した東西幅は約0.7m、深さ約0.3mを測る。埋土は7.5YR4/1 黄褐色細粒砂混粘土で、奈良～平安時代の須恵器が出土した。

第11区（規模1.5×7m）：現地表（T.P. + 56.2m）下約2.7mまでを調査した。0層は盛土。1層は7.5YR4/2 黄褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。2層は10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の西へ下がる地山層である。遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第12区（規模1.5×15m）：現地表（東側T.P. + 53.5m 西側T.P. + 52.8m）下約1.8mまでを調査した。0層は盛土。1層は7.5YR1/2 黄褐色細粒砂混粗粒シルト質粘土。2層は10YR5/8 黄褐色大礫混細礫の地山層である。2層上面から切り込む溝2条（SD 1201・SD 1202）を検出した。SD 1201は調査区のほぼ中央で検出した。東西方向に直線に伸び、幅2.1mを測る。断面形状は浅い逆台形で、深さ0.37mを測る。埋土は2.5Y5/1 黄褐色粗粒砂混粘土で、鎌倉時代の瓦器碗および土師器小皿の破片が出土した。SD 1202はSD 1201の西側約2mで検出した。東西方向に直線に伸び、幅1.0mを測る。断面形状は浅い逆台形で、深さ0.1mを測る。埋土は2.5Y5/1 黄褐色粗粒砂混粘土である。これらの溝は鎌倉時代に比定できる。

**第13区（規模1.5×9m）**：現地表（東側T.P. + 53.2 m 西側T.P. + 52.5 m）下約1.0 mまでを調査した。0層は盛土。1層は10YR6/8明黃褐色細粒シルト質粘土。2層は10YR4/6褐色大礫混細礫の地山層である。1層および2層上面から切り込む上坑1条（SK 1301）、溝1条（SD 1301）を検出した。SK 1301は調査区の東側で検出した。遺構の東側は調査区外に至るため規模は不明である。検出した東西幅は約1.0 m、深さ約0.5 mを測る。埋土は7.5YN6/8橙色大礫混粘土で、遺物の川上はなかった。SD 1301はSK 1301の西側約0.4 mで検出した。東西方向に直線に伸び、幅0.9～1.1 mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.7 mを測る。埋土は10YR7/8黄橙色細礫混粘土で、遺物の出土はなかった。

**(2) 出土遺物**：第6区で検出した古墳の玄室床面より10～20 cm上の位置から須恵器、土師器、鉄製品の破片が出土した。出土遺物のうち（1～12）を図化した。1～8は、東側玄室袖部付近から出土した。1～4は鉄釘である。1と2は完形品で、長さ約19 cmを測る。釘頭部の幅は約4 cmを測る。釘の断面形状は方形で、一辺約1 cmを測る。2の表面には縱方向の木目が残る。5～7は鉄鎌である。6と7は完形品で、胴部の長さは6が19 cm、7が16 cmを測る。胴部断面は長方形で、6が長辺2 cm・短辺1 cm、7が長辺1.5 cm・短辺1 cmを測る。脚部は先端が尖って終わる。7の胴部内面に木目が残る。8は須恵器杯蓋で、口径15.5 cm・器高4.7 cmを測る。6世紀前半のものである。9～11は玄室中央部東壁側から出土した。9～11は須恵器杯身である。12は奥壁から出土した。12は須恵器高杯の裾部である。

第7区で検出した土坑からは、近世の瓦が出土している。また、第7区周辺では、黒色土器碗（13）が表採されている。13は高台が「ハ」の字に貼り付く。見込みには平行線状暗文を施し、内面には横方向に密なミガキを施している。

第9区の第1層からは土師器、須恵器の破片が出土した。出土遺物のうち（14・15）を図化した。14は須恵器甕、15は須恵器杯身である。また、西側に落ち込む地層からも土師器、須恵器、埴輪の破片が出土した。出土遺物のうち（16）を図化した。16は埴輪の底部である。内外面ともに縦方向のハケを施す。内面には粘土接合の痕跡が残る。

第10区の第1層からは土師器、須恵器の破片が出土した。出土遺物のうち（17）を図化した。17は須恵器杯身である。断面台形の高台が「ハ」の字に貼り付く。

第12区のSD 1201からは土師器、瓦器の破片が出土した。出土遺物のうち（18）を図化した。18は瓦器碗である。

**(3) まとめ**：第6区の西側で古墳の石室を検出した。石室の上部は後世に壊されていたが、基底の石や、羨道部分も一部残っていた。床面には土師器や須恵器の破片及び釘などの金属が出土している。

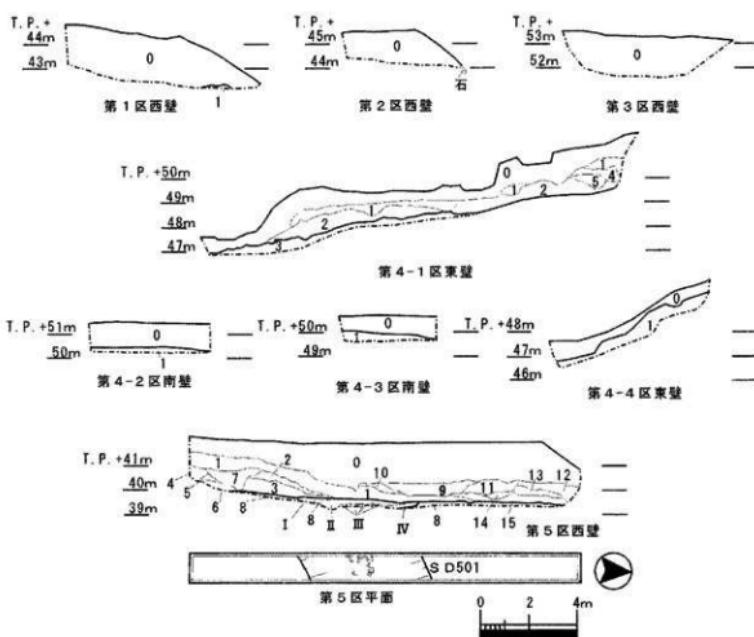
第7区では、石室の奥壁の石を検出した。古墳のほとんどは破壊をうけており残存している部分はこの石のみであった。しかし、この石の北側と南側で右が抜き取られた痕跡を検出していることから南南西に石室の軸を持つ古墳である可能性が極めて高い結果を得た。

なお、今回の調査地の南隣にある垣内共同墓地内には古墳が存在している。この古墳の標高はT.P. + 40 m前後で、今回の調査地と同じ高さにある。開発により地形が変わり、本来の地形がわからなくなっているが、おそらく今回の調査地にも第6・7区で検出した古墳以外にも古墳が存在している可能性が高いと考えられる。

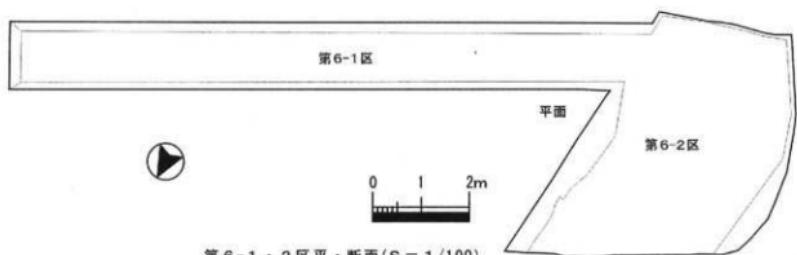
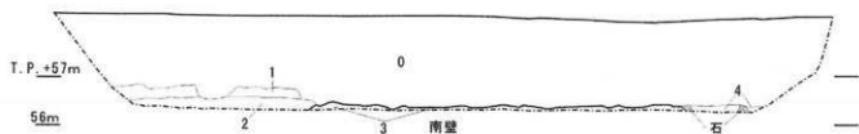
（西村公助・高萩）

#### 参考文献

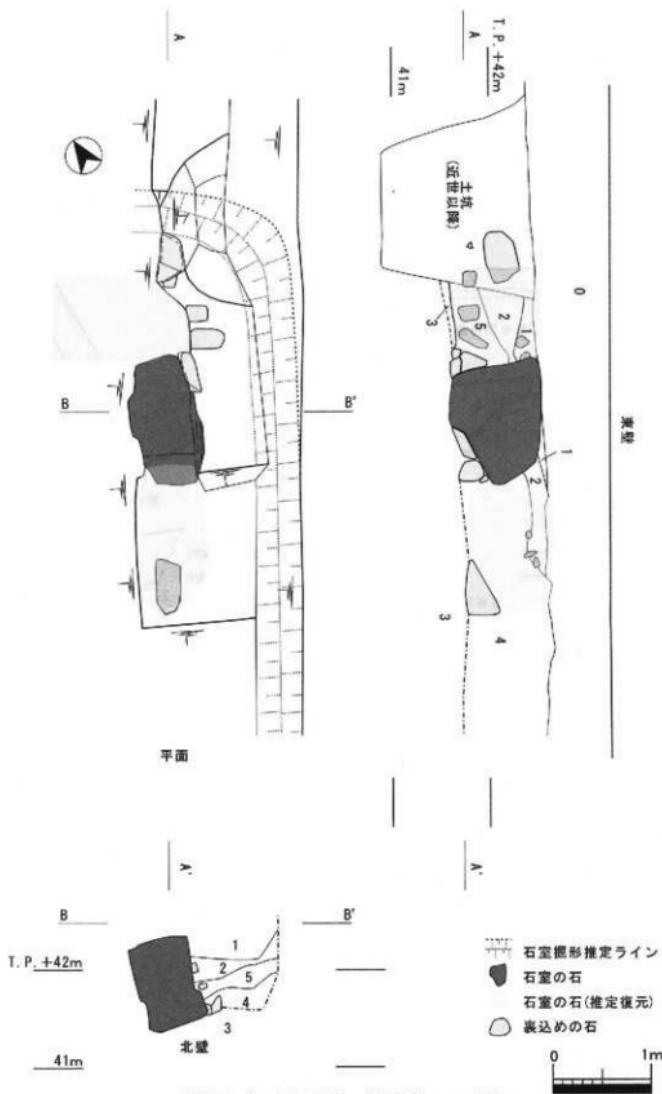
- ・崎村友子 1986.3 「3. 高安古墳群の調査」『八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告12 昭和60年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・近江俊秀 1983.3 「15. 郡川遺跡(63-193)の調査」『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書1』八尾市文化財調査報告19 昭和63年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・米田敏幸 1990.3.15. 「郡川遺跡(半鋼池)の調査」『八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書II』八尾市文化財調査報告21 平成元年度国庫補助事業 八尾市教育委員会
- ・坪田賛一 2002 「敦賀寺跡(第1次調査・第2次調査)」『財团法人八尾市文化財調査研究会報告72』財团法人八尾市文化財調査研究会
- ・植口 壱 2004 「II 郡川遺跡第4次調査(032001-4)」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告6 平成16年度』八尾市教育委員会 財团法人八尾市文化財調査研究会



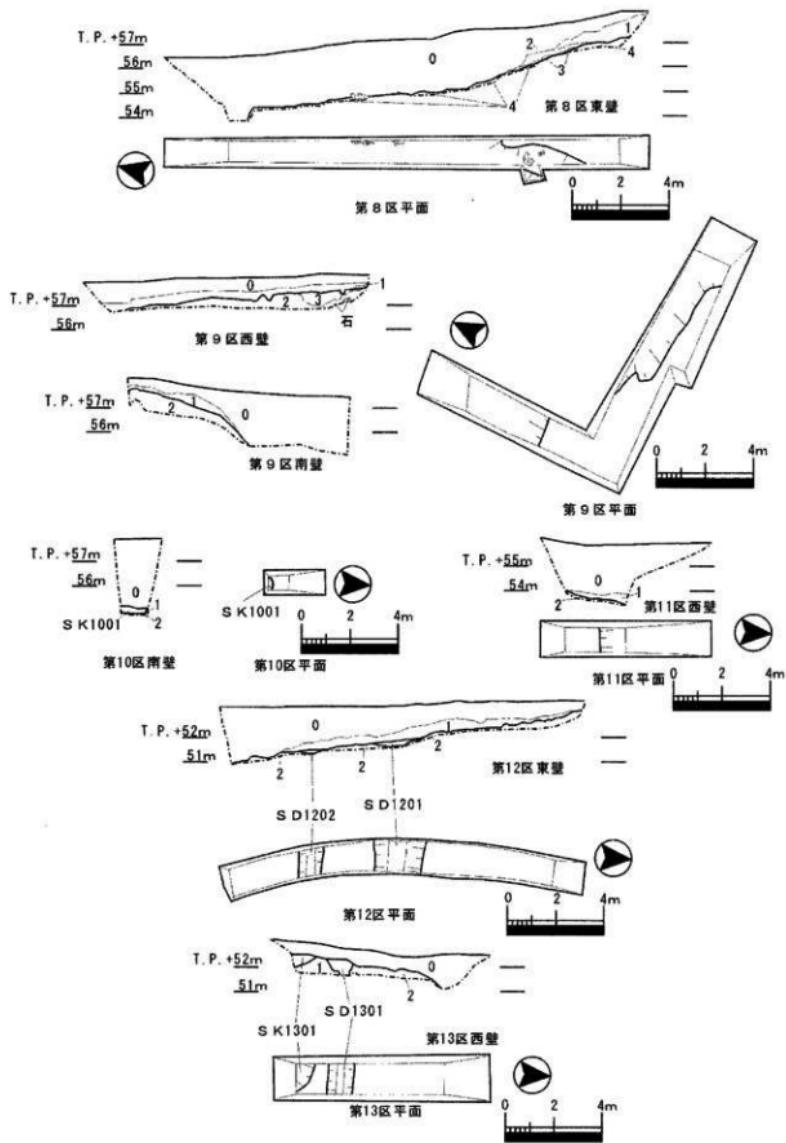
第39図 調査位置図 ( $S = 1/500$ ) および第1～5区平・断面図 ( $S = 1/200$ )



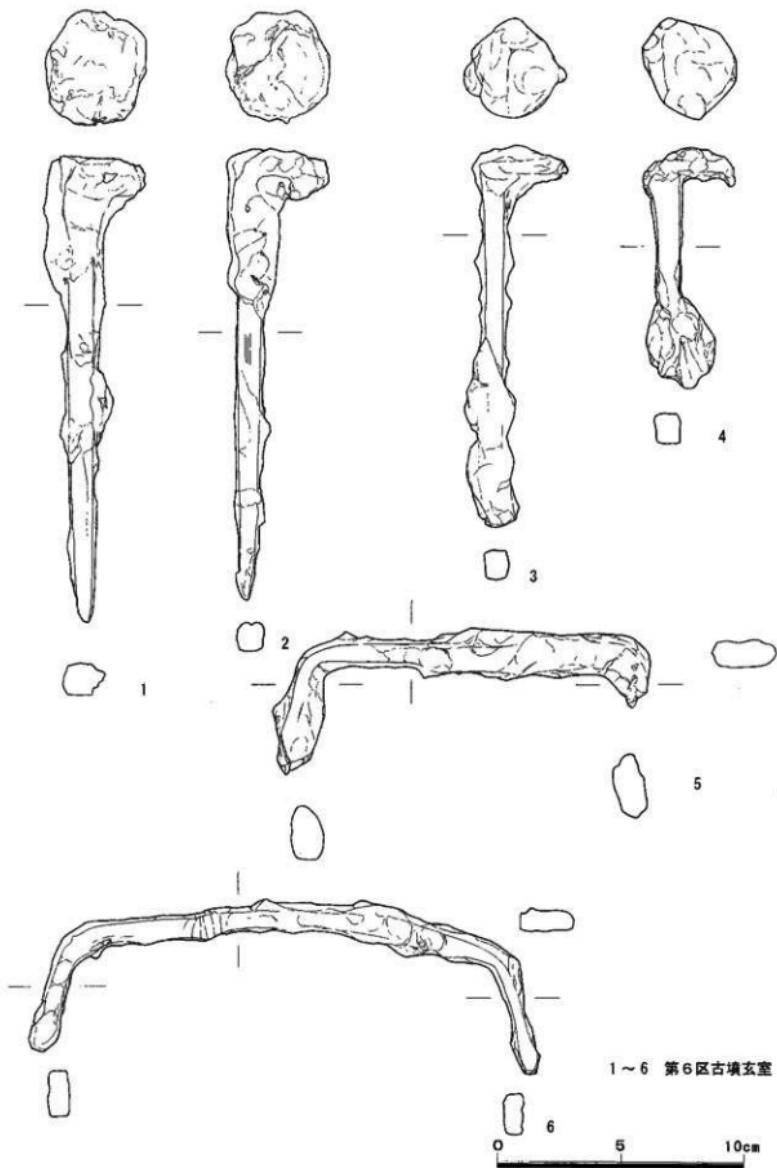
第40図 第6区平・断面図(S = 1/100)および石室平面図(S = 1/50)



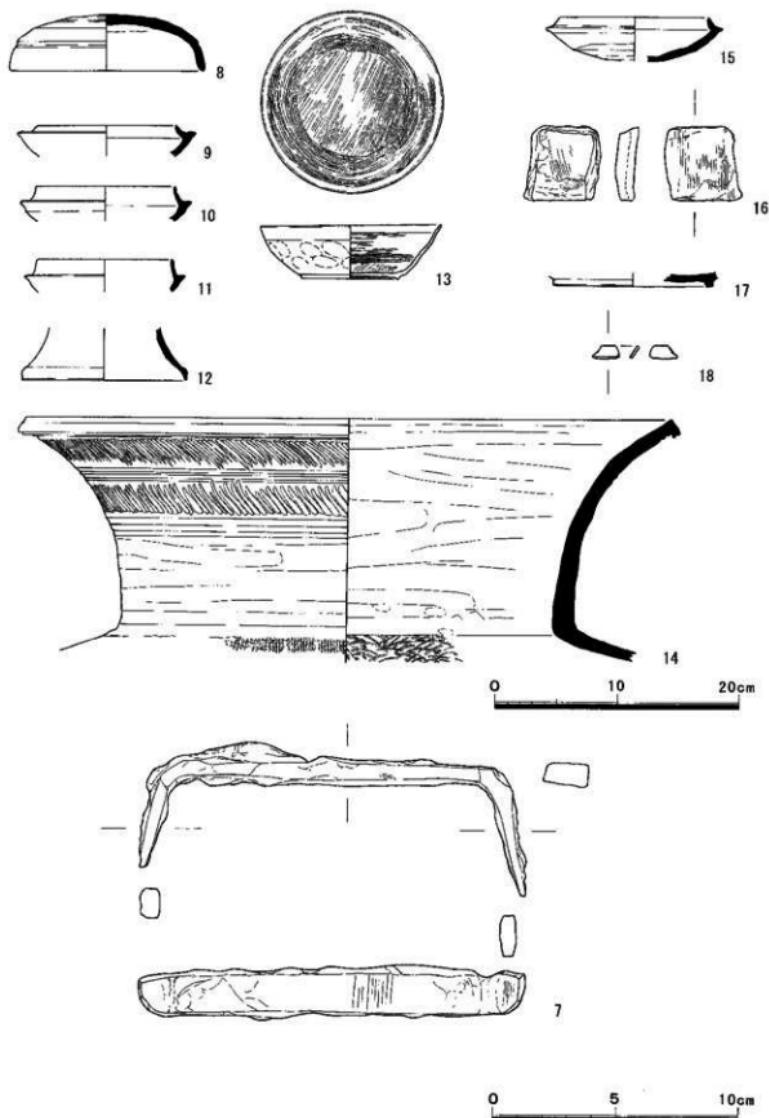
第41図 第7区石室平・断面図( $S = 1/50$ )



第42図 第8～13区平・断面図 (S = 1/200)



第43図 出土遺物実測図 ( $S = 1/2$ )



第44図 出土遺物実測図 (7 S = 1/2、8~18 S = 1/4)

## 17. 竹瀬遺跡 [第10図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-288	2005.11.18	竹瀬 2 丁目 137番	倉庫付工場: 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 ~ 2.5 m: 3箇所(12 m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし	原田

## 18. 東郷遺跡 [第11図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-101	2005.6.12	東本町五丁目 17番 03、17番 64の各一部	個人住宅: 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.5 m 深さ 1.5 m: 1箇所(5 m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし	横口
2005-78	2005.6.28	北本町一丁目 58-1、58-2、59-1、60-1	分譲住宅・立体駐車場: 基礎(遺構確認調査)	2.5 × 2.5 m 深さ 2.2 ~ 2.3 m: 3箇所(18.75 m <sup>2</sup> )	T.P. + 6.0 m 前後中世水田。瓦器類断片	原田
2005-221	2005.6.9	光町一丁目 9番	店舗: 基礎(遺構確認調査)	2.5 × 2.5 m 深さ 2.7 m: 3箇所(18.75 m <sup>2</sup> )	詳細は[18-1]に記載。	西村
2005-208	2005.9.29	東本町五丁目 2番 31の一部	共同住宅: 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 m: 1箇所(4 m <sup>2</sup> )	近現代の溝、遺物なし。	原田
2005-296	2009.11.15	莊内町二丁目 25の一部	店舗: 貯留槽(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.6 m: 1箇所(4 m <sup>2</sup> )	遺構なし。時期不明の土器片	原田

### 18-1. 東郷遺跡(2005-221)の調査 [第11図 図版15]

(1) 調査概要: 建物基礎部分に 2.5 × 2.5 m の調査区を 3箇所設定した。西側から第1区、第2区、第3区と呼称する。なお、第3区は遺構を検出したため、西へ 2m 拡張した。今回の調査では八尾市作成 1/2500 の地図に記載している標高値(調査地の南西側道路上 T.P. + 7.0 m)を使用した。

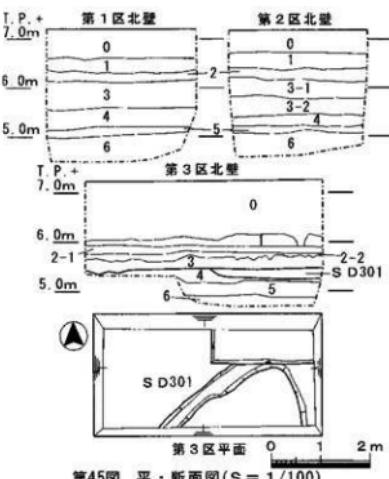
第1区: 0層は盛土。1層は 5B3/1 暗青灰色細粒砂混粘土。2層は 10BG5/1 青灰色細粒砂混粘土。3層 10YR6/1 褐灰色細粒シルト質粘土で、マンガン斑が見られる。4層は 10YR5/8 黄褐色粘土。5層は 10BG7/1 明青灰色細粒シルト質粘土。6層は 5B6/1 青灰色細粒砂と細粒シルトのラミナである。遺構・遺物なし。第2区: 第1区とはほぼ同様の堆積状況を示す。遺構・遺物なし。第3区: 第1区とはほぼ同様の堆積状況を示す。3層上面で、足跡状の窪みと攪拌された土壌を確認した。

上面は水田であった可能性が高い。遺物の出土がなく時期は不明であるが、おそらく中世と思われる。4層上面では、平面形状文字に曲がる溝を 1条(SD 301)検出。幅 0.2 m 以上、深さ 0.2 m 以上を測る。埋土は 10YR5/1 褐灰色細粒シルト質粘土で、古墳時代初頭頃の土器の破片が出土した。この土器は図化できなかったが、内面ケズリを施す薄手の器形の庄内式の壺になると思われる。

(2) まとめ: 第3区で検出した溝(SD 301)は、根拠に乏しく断定はできないが、埋土や平面形状から墓の周囲に巡る溝である可能性も考えることができるかもしれない。  
(西村)

#### 参考文献

- 岡田清一 2006 「6 東郷遺跡(2005-221)」『八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告 50 平成16年度  
復旧補助事業 八尾市教育委員会



第45図 平・断面図(S=1/100)

## 19. 中田遺跡 【第10図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-107	20050627	中田二丁目 4022の一部	個人住宅：基礎(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	中世以降の敷地層。土 器、瓦器の碎片	西村
2005-82	20050705	八尾木北2丁目 67番の一部及び 68番の一部	個人住宅：基礎(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ1.85m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし。	原田
2005-158	20050808	八尾木北三丁目 199番	個人住宅：基礎(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	詳細は[19-1]に記載。	原田
2005-332	20051125	八尾木北5-24	専用住宅：基礎(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ1.85m： 1箇所(4m <sup>2</sup> )	詳細は[19-2]に記載。	原田

### 19-1. 中田遺跡(2005-158)の調査 【第10図 図版15】

(1) 調査概要：個人住宅に伴う遺構確認調査。2×2m 1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図(1/2500)に記載されているT.P. + 10.2m(八尾木北3丁目)である。

【地層】現地表下2.0mまでの間で8層(0~7層)を確認した。0層は盛土で層厚90cm。1層は水田に伴う作土層。層厚15cm。2層は10BG6/1青灰色砂質シルト。グライ化が顕著である。層厚20cm。3層は酸化鉄・マンガン斑が認められる2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト。層厚15cm前後。中世の遺物を含む。4層は3層と同様、酸化鉄・マンガン斑が認められる2.5Y7/3浅黄色粘土質シルト。層厚15cm前後。5層は2.5Y7/2灰黄色粘土質シルトで、土師器片を含むが時期は明確でない。層厚25cm前後。6層は7.5Y6/1灰色粘土質シルトで弥生時代後期の遺物を含む。層厚20cm前後。7層は10GY6/1緑灰色シルト。層厚10cm以上。

【検出遺構】なし

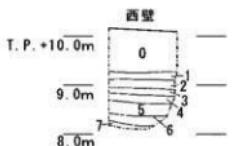
【出土遺物】2層-土師器(中世)、5層-土師器(時期不明)、6層-弥生土器(弥生後期)

(2) 出土遺物: 小形鉢1点(1)を図化した。底部は丸仔、体部は約1/4が残存している。体部は深口で口縁部は直口を呈する。底部は上げ底で「ハ」の字状に開く形状であるが、全体にやや難な作りで、未調整部分を多く残す。色調は褐色。生駒西麓産。弥生時代後期後半に比定される。

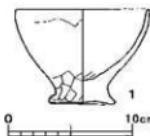
(3)まとめ: 2層(中世)、5層(時期不明)、6層(弥生後期)で遺物包含層を確認した。特に6層で検出した弥生時代後期の遺物包含層については、当調査地の東約140m地点の第15次調査(N T 92-15)、南東約170m地点の第17次調査(N T 93-17)で当該期の居住域が検出されており、今回の調査の結果、集落域が西部に広がることが確認された。  
(原田)

#### 参考文献

- 原田昌則 2004 「VI 中田遺跡(第10次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告81』(財)八尾市文化財調査研究会



第46図 地層断面図(S=1/100)



第49図 出土遺物実測図(S=1/4)

## 19-2. 中田遺跡 (2005-332) の調査 【第10図 図版16】

(1) 調査概要：規模は $2 \times 2$ mの1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図(1/2500)に記載されているT.P.+10.3m(八尾木北5丁目)である。

【地層】現地表ド1.85mまでの間で9層(0~8層)を確認した。0層は客土。層厚0.55m前後。1層は5Y4/1灰色砂質シルトの水田作土層。層厚0.15m前後。2層はグライ化した10BG6/1青灰色砂質シルト。層厚0.15m前後。3層は酸化鉄・

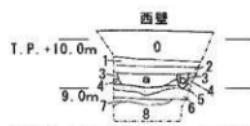
マンガン斑が認められる2.5GY8/1灰白色砂質シルト。層厚0.1m。上面が鎌倉時代中期(13世紀中葉)の遺構構築面。4層は5GY8/1灰白色極細粒砂混砂質シルトである。5層は2.5Y7/6明黄褐色極細粒砂。6層は酸化鉄の斑点が認められるN6/0灰色粘土質シルト。7層は5Y8/2灰白色極細粒砂~中粒砂。8層は酸化鉄の斑点が認められる5BG6/1青灰色砂質シルトである。5層以下は水成層が連続する不安定な層相で、遺物は出土していない。

【検出遺構】性格は不明であるが、3層上面を切り込む遺構を西壁で2箇所(遺構内埋土--a層7.5Y6/1灰色砂質シルト、b層7.5Y4/1灰色砂質シルト)検出した。共に鎌倉時代中期(13世紀中葉)の土師器・瓦器碗を含む。

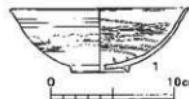
【出土遺物】土師器・瓦器碗(13世紀中葉)

(2) 出土遺物：a層から出土した瓦器碗1点(1)を図化した。深目の部に断面三角形の貼り付け高台が付く瓦器碗である。約1/3が残存している。復元口径14.4cm、器高5.2cm、復元高台径4.6cm、高台高0.5cmを測る。体部外面上位は強いヨコナギ調整により、明瞭な段を形成している。体部のヘラミガキ調整は、内面が横方向にやや粗く、外面は横方向に施されているが、僅かに散見される程度である。見込みには平行線状ヘラミガキが施されている。色調は灰色。帰属時期は平安時代後期末~鎌倉時代初頭(12世紀末前後)に比定される。

(3) まとめ：調査の結果、旧作上層上面から約0.4m下部で鎌倉時代中期を中心とした生活面の存在が明らかになった。調査地点は奈良時代後期の「由義宮」との関わりが考えられる由義神社の西に近接しており、それらに関連する時期の遺構・遺物の検出が想定されたが、当該期においては水成層が連続する不安定な環境であったことが明らかとなつた。また、調査地点の東に近接する地点で実施された第4次調査の2区では、T.P.+8.0m前後で弥生時代中期の遺構・遺物が検出されており、本調査地の下部においても同時期の生活面が広がっていた蓋然性が高いと考えられる。(原田)



第48図 地層断面図(S=1/100)



第49図 出土遺物実測図 (S=1/4)

### 参考文献

- ・原田昌則 2004 「VI 中田遺跡(第10次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告81』(財)八尾市文化財調査研究会

## 20. 東弓削遺跡 【第12図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2004-466	20050404	大字東弓削 86番地	電話通信(携帯電話通信施設) : 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 m : 1箇所 (4 m <sup>2</sup> )	T.P. + 10.6 m 前後土壌化層。縄文時代頃の水田。遺物なし。	西村
2004-475	20050415	八尾木4丁目51番	専用住宅 : 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 m : 1箇所 (4 m <sup>2</sup> )	T.P. + 10.0 m 前後土壌化層。時期不明の水田。T.P. + 9.5 m 前後の砂層から須恵器・骨器・瓦器	荒川
2005-155	20050928	東弓削2丁目12番の一部	個人住宅 : 基礎(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 1.9 m : 1箇所 (4 m <sup>2</sup> )	遺構なし。中世の土師器・瓦器。古墳時代後期土師器・須恵器	原田
2005-240	20061114・15	八尾木4丁目14番、13番2の各一部	分譲住宅 : 人孔(遺構確認調査)	2.0 × 2.0 m 深さ 2.0 ~ 2.2 m : 5箇所 (20 m <sup>2</sup> )	遺構なし。T.P. + 9.0 m 前後古式土師器	原田

## 21. 水越遺跡 【第13図】

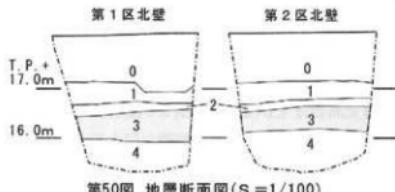
申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-321	20051122	千家一丁目10番	工場新築 : 基礎(遺構確認調査)	2.5 × 2.5 m 深さ 2.0 m : 2箇所 (12.5 m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし。	荒川
2005-322	20061128	服部川三丁目14番、15-1番	身体障害者寮施設 : 基礎(遺構確認調査)	3.0 × 3.0 m 深さ 3.0 m : 2箇所 (18 m <sup>2</sup> )	詳細は[21-1]に記載	西村

### 21-1. 水越遺跡(2005-322)の調査 【第13図 図版16】

(1) 調査概要：建物基礎部分に  $3.0 \times 3.0$  m の調査区を 2 箇所(南側を第1区、北側を第2区とする)を設定し調査を行った。レベル高は調査地の南西側約 100 m にある道路上の標高値(T.P. + 16.0 m)を使用した。

第1・2区：現地表(T.P. + 18.2 m 前後)下約 3.0 m までに 5 層の堆積を確認した。0 層は盛土。1 層は 7.5YR6/1 褐灰色細粒砂混粘土。2 層は 10Y5/1 灰色細粒シルトと粗粒シルトのラミナで、湧き水があった。3 層は 7.5YR2/1 黒色細粒砂混粘土で、弥生時代後期に比定できる甕等が出土した。遺物は破片で図化できなかった。4 層は 5Y4/1 灰色細粒砂である。

(2) まとめ：遺構の検出はなかったが、3 層は弥生時代後期の遺物包含層で、近隣に同時期の遺構が存在している可能性が高いと考えられる。(西村)



第50図 地層断面図(S=1/100)

### 参考文献

- 成海佳子 2000「II 水越遺跡第7次調査(MK 2000-7)」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告2 平成12年度』八尾市教育委員会 財団法人八尾市文化財調査研究会

## 22. 美園遺跡 【第13図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-192	2005.11.10	美園町4丁目 1-1の一部	分譲住宅:防火水槽 人丸 (構造確認調査)	3.0×3.0m深さ3.0m 1箇所 3.0×2.0m深さ2.0m 2箇所(25m <sup>2</sup> ) 4箇所(25m <sup>2</sup> )	T.P.+5.0m前後土壌 化層で中世の水田と考 える。T.P.+4.0m前 後古墳時代以降の土師 器出土。	西村

## 23. 八尾寺内町 【第13図】

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-273	2005.10.07	本町3丁目 88-2,88-4,270	専用住宅:基礎(構造確認調 査)	2.0×2.0m深さ1.3m: 1箇所(4m <sup>2</sup> )	詳細は[23-1]に記 載。	原田
2005-339	2005.12.05	木戸二丁目 100-11,106-12,106-14	事務所付き共同住宅:基礎(構 造確認調査)	3.0×3.0m深さ3.0m: 2箇所(18m <sup>2</sup> )	詳細は[23-2]に記 載。	坪井

### 23-1. 八尾寺内町(2005-273)の調査 【第13図 図版17】

(1) 調査概要: 2×2mの1箇所。調査で使用した標高値は八尾市作成地図(1/2500)に記載されているT.P.+10.2m(本町3丁目)である。

【地層】現地表下1.3mまでの間に8層(0~7層)を確認した。0層は表土。1層は10YR6/6明黄褐色砂質シルトの客十層。層厚10cm前後。2層は10YR5/1褐色炭灰質シルト、3層は10YR6/1褐色炭混灰質シルトで、2・3層は共に炭を含む不均質な整地層である。江戸時代後期を中心とする国産陶磁器類・屋瓦が含まれている。4層は10YR6/2灰褐色砂質シルトで、江戸時代後期の国産陶磁器類・屋瓦が極小量出土している。5層は2.5GY8/1灰白色細～中粒砂、6層は5Y8/2灰白色細～中粒砂、7層は7.5Y6/1灰色細～中粒砂で、5～7層は河成層である。5層上面では井戸1基(井戸1)を検出した。井戸1の埋土はA層10YR7/6明黄褐色細～中粒砂とN2/0黒色砂質シルトの互層(不均質)とB層7.5GY6/1緑灰色シルト質粘土である。

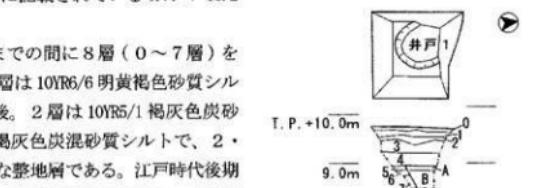
【検出遺構】井戸1基

【出土遺物】国産陶磁器・屋瓦

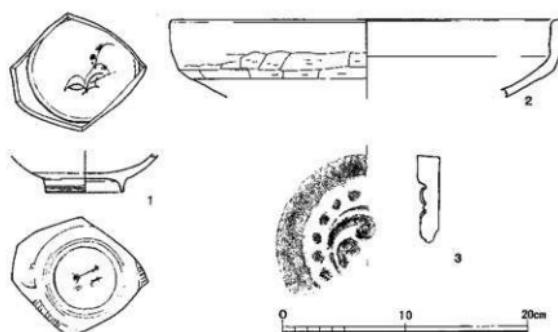
#### (2) 出土遺物: 2・3層

から出土した3点(1~3)

を図化した。1は肥前系磁器碗の小破片である。染付けの意匠が確認できるものとしては、見込みでは2条の圓線間に草花文様、高台裏面では「大明年製」の裏銘がある。胎土は白く呉須の発色が良い。17世紀中葉～後年に比定される。2は土師器炮烙である。約1/4が残存している。復元口径31.6cmを測る。器面調整は、



第51図 平・断面図(S=1/100)



第52図 出土遺物実測図 (S=1/4)

口縁部内外面および体部内面がヨコナズ、口縁部下半から体部上半にかけてヘラケズリが行われている。体部外面に煤の付着が認められる。色調は褐灰色。3は左巻き三巴文軒丸瓦である。1/3程度が残存している。巴文は丸味のある頭部から尾部は幅を減じて約半周するものと推定される。珠文は大粒で密に配されている。外縁は幅広で低い。2・3ともに江戸時代中期のものと推定される。

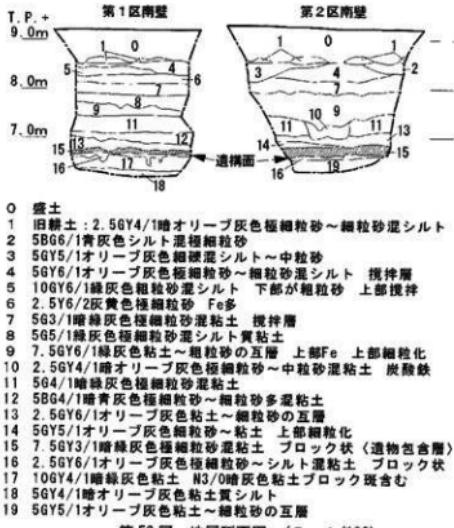
(3)まとめ:「八尾寺内町」は大信寺および慈願寺を中心として、江戸時代前期に成立した寺内町である。今回の調査地点は「八尾寺内町」の南西部にあたり、慈願寺の北側に想定されている御坊跡の西側に隣接している。調査においても、当該期に該当する炭を含む整地層(2・3層)の存在や5層上面では江戸時代後半の井戸1基(井戸1)を検出しており、「八尾寺内町」における推移・変遷を推定するうえで貴重な資料を提供する結果となった。  
(原田)

#### 参考文献

- ・岡田清一 1999 「Ⅲ 八尾寺内町遺跡(第1次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告63』財団法人八尾市文化財調査研究会

### 23-2. 八尾寺内町(2005-339)の調査 [第13図 図版17]

(1)調査概要:【層序】0層は盛土。1層は旧耕土で、第2区では下面で耕作関連と考えられる土坑状の落ち込みが見られる(2・3層)。4・5・7層は搅拌の著しい層相で作土であろう。7層からは第1区で瓦器片が出土している。第1区でのみ見られる6層は水成層で、一時的な冠水が看取される。8・9層は上部細粒化が見られる一連の水成層である。9層は第2区が粗粒砂優勢で、第1区8層は粘性が強く沼沢地化していた状況が窺える。第2区10層は溝状の遺構の可能性があるが、層相は滞水状況である。ほぼ埋没した後に9層の洪水砂により覆われている。11~14層も8・9層と同様の堆積である。15層はブロック状を呈し土壤化が著しい。弥生時代後期~古墳時代前期の遺物包含層で、第2区で層厚が厚く、上器片が多く(20数点)出土している。16層が当該期の遺構面を構成し、15層と同様にブロック状を呈し土壤化が著しい。16層以下は粘土へ細粒砂の互層状を呈する水成層である。



第53図 地層断面図 (S=1/100)

(2)まとめ:調査では遺構は検出されなかったものの、標高T.P.+6.7m付近において、北部・東部、ならびに南に隣接する成法寺遺跡北部で確認されている弥生時代後期~古墳時代前期の遺構面の存在を確認した。包含層中の土器は細片のみで、出土は東の第2区で顕著であった。中世以降は生産域となっており、水田作が重層的に認められる。  
(坪田真一)

#### 参考文献

- ・岡田清一 1999 「Ⅲ 八尾寺内町遺跡(第1次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告63』財団法人八尾市文化財調査研究会

## 24. 八尾南遺跡 [第14図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-252	2005.10.3	若林町3丁目47 -6	工場付住宅:人孔(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m: 2箇所(8m <sup>2</sup> )	T.P.+11.0m前後で 弥生時代前期遺物包含 層を確認。	高萩

## 25. 矢作遺跡 [第14図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-66	2005.6.26	高美町5丁目3番2、3番3	分譲住宅:人孔(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ1.9m: 2箇所(8m <sup>2</sup> )	T.P.+7.8m前後で 鮮状の高まり確認。水 田か。遺物なし。	原田

## 26. 山本町北遺跡 [第14図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-55	2005.6.16	山本町北6丁目83-1	分譲住宅:人孔(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m: 2箇所(8m <sup>2</sup> )	遺構・遺物なし	岡田

## 27. 弓削遺跡 [第14図]

申請番号	調査日	調査地	目的・対象	調査方法(面積)	調査結果	担当
2005-185	2005.8.22	志紀町南2丁目1	共同住宅:基礎(遺構確認調査)	3.0×3.0m深さ2.0~ 2.8m:4箇所(36m <sup>2</sup> )	詳細は[27-1]に記載。	原田
2005-160	2005.10.18	弓削町3丁目80番1,81番の1,3	共同住宅:オリフィス橋 基 礎(遺構確認調査)	2.0×2.0m深さ2.0m: 1箇所3.0×3.0m深さ 3.0m:1箇所(13m <sup>2</sup> )	遺構なし。T.P.+ 11.5m前後奈良時代 土器片出土。	西村

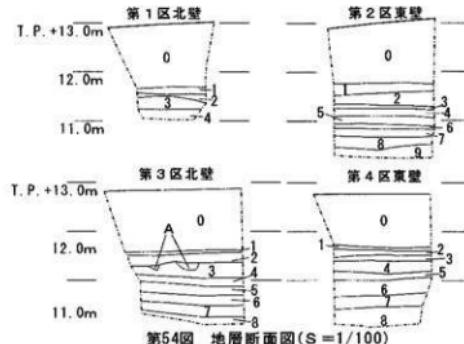
### 27-1. 弓削遺跡(2005-185)の調査 [第14図 図版18]

(1) 調査概要: 3×3mの4箇所。北側の西を第1区、東を第2区、南側の西を第3区、東を第4区と呼ぶ。調査で使用した標高値は八尾市作成図(1/2500)に記載されているT.P.+12.3m(志紀町南2丁目)である。

【地層】第1区-現地表下2.0mまでの間で5層(0~4層)を確認した。0層は盛土。層厚1.3m。1層は旧作土層。2層はグライ化し

た砂質シルト。3層は2.5Y6/2灰黄色砂質シルト、4層は2.5Y7/1灰白色砂質シルトで共に酸化鉄・マンガン斑が頗著である。第2区-現地表下2.8mまでの間で10層(0~9層)を確認した。0層は盛土。層厚1.2m。1層は旧作土層。2層はグライ化した砂質シルト。3層は床土。4層は酸化鉄・マンガン斑が頗著な10YR6/1灰白色砂質シルト。土器片を含む。5層は5Y7/2灰白色砂質シルト。硬くしまっており、遺構ベース面に成る可能性がある。6・7層は酸化鉄斑があるシルト質粘土。8層は10GY4/1暗緑灰色粘土質シルト。布留式古棺に比定される

小型鉢片が出土。9層は10GY6/1青灰色粘土質シルト。第3区-現地表下2.8mまでの間で10層(0~9層)を確認した。0層は盛土。層厚1.2m。1層は旧作土層。2層は酸化鉄・マンガン斑が頗著な10YR6/1褐灰色砂質シルト。3層は須恵器片を含む砂質シルトで、上面で溝2条を検出。4層は10YR6/2灰黄褐色シルト。5層は2.5Y7/4浅黄色シルト質粘土。6・7層は共に粘土質シルトで7層からは弥生時代後期の甕片が出土している。8層は2.5Y7/1明オリーブ色粘土質シルトである。第4区-現地表下2.7mまでの間で9層(0~8層)を確認した。0層は盛土。層厚1.1m。1



第54図 地層断面図(S=1/100)

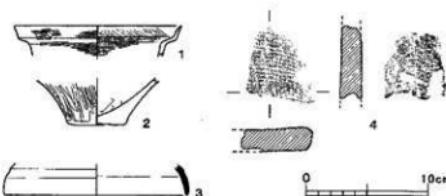
層は旧作土層。2層はグライ化した砂質シルト。3層は灰土。4層は酸化鉄・マンガン斑が顕著な2.5GY6/1オリーブ灰色中礫混砂質シルト。5層は7.5YR5/6明褐色中礫混砂質シルトで上部器を含む。6層は2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトで、奈良時代以降と推定される須恵器・屋瓦が出土している。7層は10GY5/1緑灰色シルト質粘土。8層は10GY4/1暗緑灰色粘土質シルトである。

#### 【検査造構】第3区で溝2条

【出土遺物】第2区4層（土師器）・8層（小型鉢－布留式古相）第3区3層（須恵器）・7層（甕－V様式）第4区5層（土師器）・6層（須恵器・平瓦－奈良時代以降）

#### （2）出土遺物：4点（1～4）を図化した。

1は第2区の8層出土。古式土師器の小形有段鉢の小破片である。精製品で復元口径13.6cmを測る。古墳時代前期前半（布留式古相）に比定される。2は第3区の7層出土。弥生上器蓋の底部である。底部は完存しており、底径4.8cmを測る。底部裏面はドーナツ底を呈する。色調は褐灰色。生駒西麓産。弥生時代後期に比定され



第55図 出土遺物実測図 ( $S = 1/4$ )

る。3・4は第4区の6層出土。3は須恵器杯蓋の小片である。6世紀後半に比定される。4は平瓦片である。凹面に布目、凸面に横位の繩目タタキが施されている。

（3）まとめ：第2～4区のT.P. + 11.2m前後に存在する各層から、奈良時代以降と推定される土師器・須恵器が出士している。また第2区の8層では、布留式古相の小型鉢、第3区の7層からはV様式の甕が1点出土している。調査地点の南約110m地点で昭和59年に実施された弓削遺跡第1次調査においては、弥生時代中期～奈良時代に至る遺構・遺物が検出されており、今回の試掘成果とはほぼ対応している。

（原田）

#### 参考文献

- ・西村公助 1985 「弓削遺跡1次調査」『昭和59年度事業報告』財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・森本めぐみ 2001 「XIII 弓削遺跡（第2次調査）」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告 67』財團法人八尾市文化財調査研究会
- ・高萩千秋 2002 「II 弓削遺跡第3次調査（IG2002-3）」『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告3』八尾市教育委員会 財團法人八尾市文化財調査研究会



1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(南西から)



1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(北東から)



1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(北西から)



1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(南から)



1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(南西から)



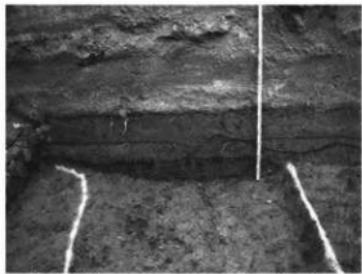
1. 東郷遺跡2004-370調査地周辺(北から)



1. 東郷遺跡2004-370第6区調査状況(南東から)



1. 東郷遺跡2004-370第6区溝検出状況(東から)



1. 東郷遺跡2004-370第6区東壁(西から)



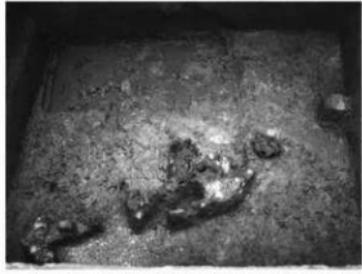
1. 東郷遺跡2004-370第13区調査状況(南から)



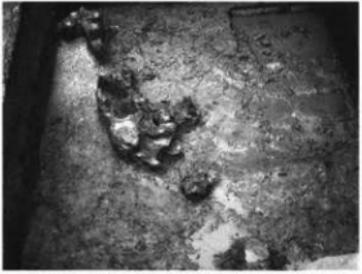
1. 東郷遺跡2004-370第13区調査状況(西から)



1. 東郷遺跡2004-370第13区 全景(北から)



1. 東郷遺跡2004-370第13区溝検出状況(西から)



1. 東郷遺跡2004-370第13区溝検出状況(南から)



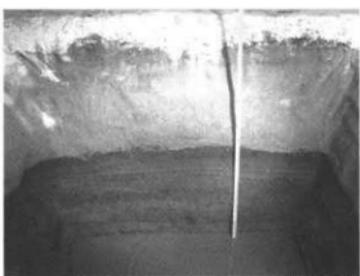
1. 東郷遺跡2004-370第13区北壁(南から)



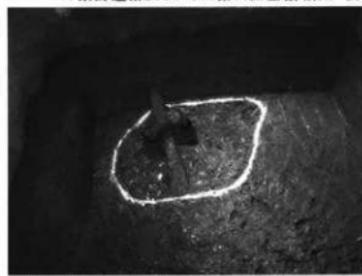
1. 東郷遺跡2004-370第16区調査状況(西から)



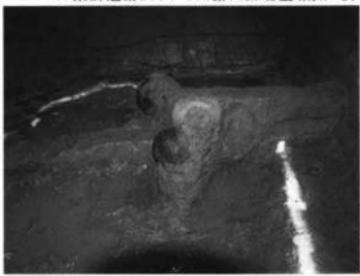
1. 東郷遺跡2004-370第16区全景(東から)



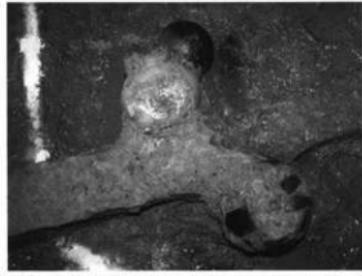
1. 東郷遺跡2004-370第16区北壁(南から)



1. 東郷遺跡2004-370第16区土坑検出状況(南から)



1. 東郷遺跡2004-370第16区土坑検出状況(東から)



1. 東郷遺跡2004-370第16区土坑遺物出土状況(西から)



1. 東郷遺跡2004-370第16区土坑遺物出土状況(南から)



1. 東郷遺跡2004-370(6)



1. 東郷遺跡2004-370(7)



1 - 1. 跡部遺跡2005-363調査地周辺(南から)



1 - 1. 跡部遺跡2005-363第2区東壁(西から)



2 - 1. 植松遺跡2005-25調査地周辺(南東から)



2 - 1. 植松遺跡2005-25第2区西壁(東から)



1 - 1. 跡部遺跡2005-363第1区西壁(東から)



1 - 1. 跡部遺跡2005-363第3区東壁(西から)



2 - 1. 植松遺跡2005-25第1区西壁(東から)



2 - 1. 植松遺跡2005-25第2区調査状況(北東から)



4-1. 恩智2005-38調査地周辺(西から)



4-1. 恩智2005-38第1区全景(南から)



4-1. 恩智2005-38(7)



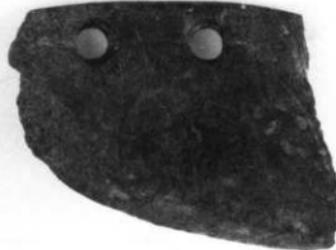
4-1. 恩智2005-38(13)



同(14)



4-1. 恩智2005-38(11)



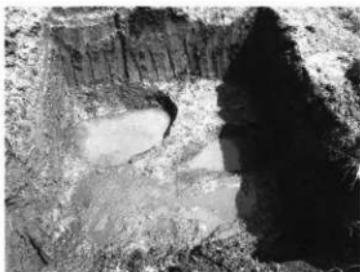
—



4-1. 恩智2005-38(12)



4-2. 恩智2005-61第1区全景(南から)



4-2. 恩智2005-61第2区全景(南から)



4-2. 恩智2005-61第2区東壁(西から)



4-2. 恩智2005-61(6)



4-2. 恩智2005-61(10)



4-2. 恩智2005-61(4)



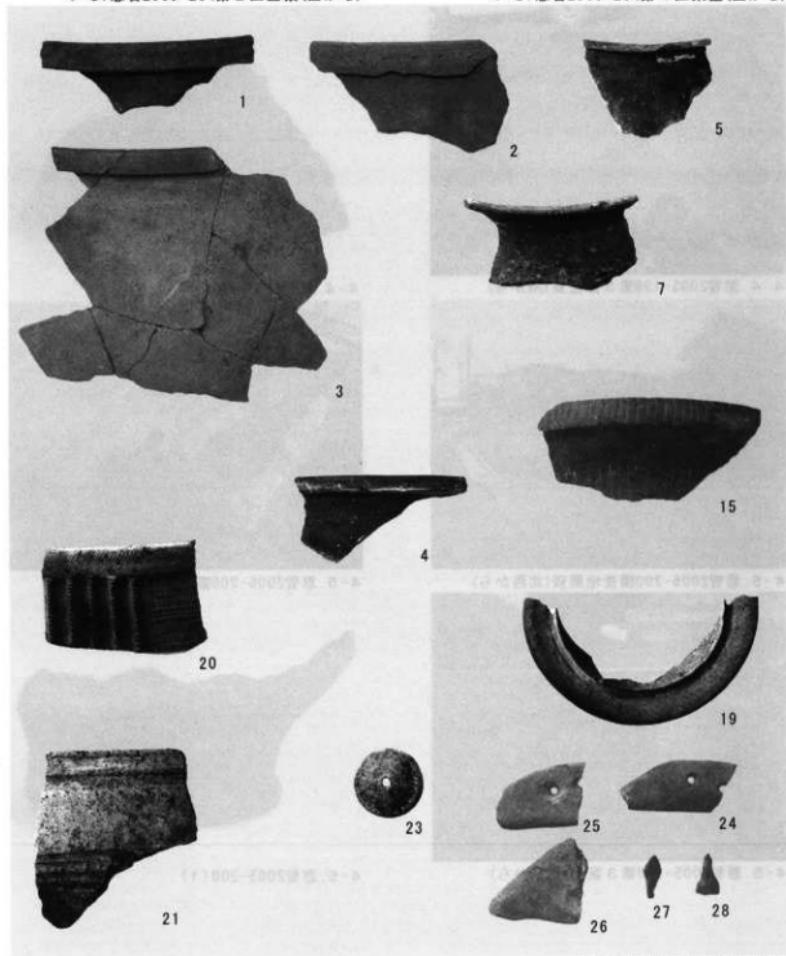
4-2. 恩智2005-61(12)



4-3. 恩智2005-254第2区全景(西から)



4-3. 恩智2005-254第4区東壁(西から)



4-3. 恩智2005-25出土遺物



4-4. 恩智2005-199調査地周辺(北東から)



4-4. 恩智2005-199第1区全景(南から)



4-4. 恩智2005-199第3区全景(南から)



4-4. 恩智2005-199(1)



4-5. 恩智2005-200調査地周辺(北西から)



4-5. 恩智2005-200第1区全景(南西から)



4-5. 恩智2005-200第3区全景(西から)



4-5. 恩智2005-200(1)



7-1. 萱振2005-49調査地周辺(南西から)



12-1. 小阪合2005-44調査地周辺(南から)



7-1. 萩振2005-49第1区北壁(南から)



7-1. 萩振2005-49第2区北壁(南から)



12-1. 小阪合2005-44第1区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第2区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第3区北壁(南から)



12-1. 小阪合2005-44第4区北壁(南から)



12-1. 小阪合2005-44第5区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第7区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第9区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第10区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第6区南壁(北から)



12-1. 小阪合2005-44第8区北壁(南から)



12-1. 小阪合2005-44(1)



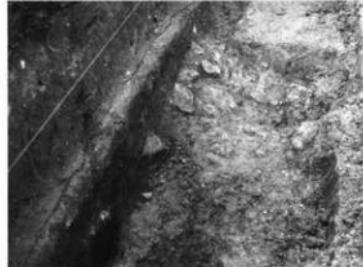
16-1. 高安古墳群2004-211調査地周辺(北東から)



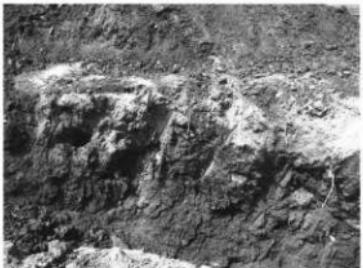
16-1. 高安古墳群2004-211第2区南壁(北から)



16-1. 高安古墳群2004-211第4-1区全景(西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第5区 S D501(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第1区南壁(北から)



16-1. 高安古墳群2004-211第3区南壁(北から)



16-1. 高安古墳群2004-211第5区全景(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第5区西壁(東から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-1区全景(東から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-2区全景(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-2区全景(東から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-2区調査部分(北西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-2区調査状況(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第6-2区調査状況(南西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区全景(南西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区調査状況(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区石室(東から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区東壁(西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第8区全景(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第10区全景(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区石室(西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第7区石室(南から)



16-1. 高安古墳群2004-211第9区全景(東から)



16-1. 高安古墳群2004-211第11区全景(北から)



16-1. 高安古墳群2004-211第12区全景(南から)



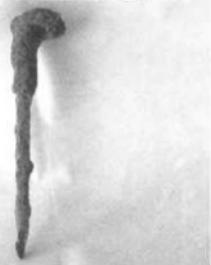
16-1. 高安古墳群2004-211第13区全景(北から)



16-1. 高安古墳群2004-211第12区東壁(西から)



16-1. 高安古墳群2004-211第13区調査状況(北西から)



16-1. 高安古墳群2004-211(2)



16-1. 高安古墳群2004-211(7)



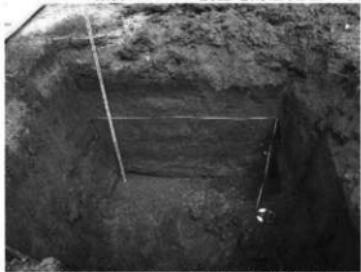
16-1. 高安古墳群2004-211(8)



16-1. 高安古墳群2004-211(13)



18-1. 東郷2005-221調査地周辺(北西から)



18-1. 東郷2005-221第1区全景(南から)



18-1. 東郷2005-221第1区全景(南から)



18-1. 東郷2005-221第2区全景(南から)



18-1. 東郷2005-221第3区全景(南から)



18-1. 東郷2005-221第3区全景(南から)



19-1. 中田2005-158 調査地周辺(北東から)



19-1. 中田2005-158 出土遺物(1)



19-2. 中田2005-332 調査地周辺(東から)



19-2. 中田2005-332 全景(東から)



21-1. 水越2005-322 調査地周辺(南西から)



21-1. 水越2005-322 第1区北壁(南から)



19-2. 中田2005-332(1)



21-1. 水越2005-322 第1区調査状況(南から)



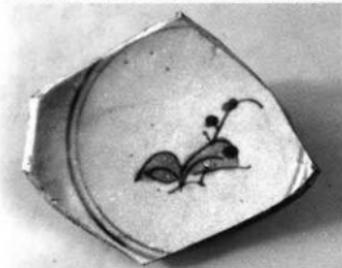
21-1. 水越2005-322 第2区北壁(南から)



23-1. 八尾寺内町2005-273調査地周辺(南西から)



23-1. 八尾寺内町2005-273西壁(東から)



23-1. 八尾寺内町2005-273(2)



23-1. 八尾寺内町2005-273(1)



23-2. 八尾寺内町2005-339第1区全景(北東から)



23-2. 八尾寺内町2005-339第2区全景(北東から)



27-1. 弓削2005-185調査地周辺(東から)



27-1. 弓削2005-185第2区東壁(西から)



27-1. 弓削2005-185第4区東壁(西から)



27-1. 弓削2005-185第1区北壁(南から)



27-1. 弓削2005-185第3区北壁(南から)



27-1. 弓削2005-185(2)



27-1. 弓削2005-185(4)

報告書抄録						
ふりがな	やおしないいせきへいせい17ねんどはくつちょうさほうこくしょ					
書名	八尾市内遺跡半成17年度発掘調査報告書					
副書名	平成17年度国庫補助事業					
巻次						
シリーズ名	八尾市文化財調査報告					
シリーズ番号	53					
編著者名	高萩千秋 原田昌則 西村公助 坪田真一 岡田清一 橋口薰 荒川和哉					
編集機関	八尾市教育委員会					
所在地	〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1番1号 電 0729-24-8555					
発行年月日	西暦 2006年3月31日					

ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (a)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
1. 東郷遺跡	八尾市光町2	27212	37	343746	1353632	20050111 ~ 19	336 店舗建設に伴う遺構確認調査
1-1. 郡部遺跡	八尾市跡部北の町3	27212	64	343702	1353511	20051222	12 店舗建設に伴う遺構確認調査
2-1. 楠松遺跡	八尾市永畠町2	27212	63	343632	1353651	20050631 ~ 0608	42.48 店舗建設に伴う遺構確認調査
4-1. 恵智遺跡	八尾市恵智中町2	27212	30	343620	1353753	20050520	8 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-2. 恵智遺跡	八尾市恵智中町2	27212	30	343623	1353754	20050728	8 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-3. 恵智遺跡	八尾市恵智中町2	27212	30	343622	1353754	20050927 ~ 28	16 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
4-4. 恵智遺跡	八尾市恵智中町2	27212	30	343625	1353751	20051107	20 長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
4-5. 恵智遺跡	八尾市恵智中町2	27212	30	343625	1353752	20051107	16 長屋住宅建設に伴う遺構確認調査
7-1. 箕輪遺跡	八尾市縁ヶ丘1	27212	65	343801	1353636	20050629	8 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
12-1. 小阪合遺跡	八尾市若草町1	27212	40	343724	1353646	20060803 ~ 06 ~ 07	90 病院建設に伴う遺構確認調査
16-1. 高安古墳群	八尾市黒谷4	27212	12	343647	1353829	20050729 ~ 0901	262 分譲住宅建設に伴う遺構確認調査
18-1. 東郷遺跡	八尾市光町1	27212	37	343749	1353626	20050908	18.75 店舗建設に伴う遺構確認調査
19-1. 中田遺跡	八尾市八尾木北3	27212	28	343643	1353712	20050808	4 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
19-2. 中田遺跡	八尾市八尾木北5	27212	28	343659	1353659	20051125	4 個人住宅建設に伴う遺構確認調査
21-1. 水越遺跡	八尾市服部川3	27212	42	343727	1353825	20051128	18 身体障害者康復施設建設に伴う遺構確認調査
23-1. 八尾寺内町	八尾市本町3	27212	80	343727	1353657	20051007	4 専用住宅建設に伴う遺構確認調査
23-2. 八尾寺内町	八尾市本町2	27212	80	343721	1353604	20051205	18 事務所付き共同住宅建設に伴う遺構確認調査
27-1. 弓削遺跡	八尾市志紀町南2	27212	71	343541	1353709	20050822	36 共同住宅建設に伴う遺構確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1. 本郷遺跡	集落	古墳時代前期	土坑	古式土師器	
1-1. 荘原遺跡	集落	古墳時代前期	-	古式土師器	
2-1. 梶原遺跡	集落	奈良時代後半～平安時代前期	-	土師器	
4-1. 恵智遺跡	集落	弥生時代前期～中期	-	弥生土器・石器	
4-2. 恵智遺跡	集落	弥生時代中期	土坑	弥生土器・石器	
4-3. 恵智遺跡	集落	弥生時代中期～後期	土坑・礎	弥生土器・石器	
4-4. 恵智遺跡	集落	弥生時代前期	-	弥生土器	
4-5. 恵智遺跡	集落	弥生時代前期～中期	-	弥生土器	
7-1. 宮坂遺跡	集落	古墳時代初頭～前期	溝	古式土師器	
12-1. 小阪合遺跡	集落	弥生時代前半～平安時代	河川	古式土師器・土師器・須恵器	
16-1. 高安古墳群	古墳	古墳時代後期	石室	土師器・須恵器・鉄製品	
18-1. 東郷遺跡	集落	古墳時代初頭	溝	古式土師器	
19-1. 中田遺跡	集落	弥生時代後期	-	弥生土器・土師器	
19-2. 中田遺跡	集落	縄文時代中期	-	土師器・瓦器	
23-1. 水越遺跡	集落	弥生時代後期	-	弥生土器	
23-2. 八尾寺内町	集落	江戸時代前期	井戸	閑居陶磁器・屋瓦	
27-1. 弓削遺跡	集落	奈良時代後期～古墳時代前期	-	-	
27-2. 八尾寺内町	集落	奈良時代後期	溝	古式土師器・須恵器・鉄製品	

**八尾市文化財調査報告 53  
平成 17 年度国庫補助事業**

**八尾市内遺跡平成 17 年度発掘調査報告書**

発行日 2006 年 3 月 31 日  
編集・発行 八尾市教育委員会  
〒 581-0003 八尾市本町 1-1-1  
Tel 0729-24-8555( 直通 )

〈八尾市刊行物番号 H17-125〉

